



複式指導資料第 37 集（令和 5 年度）

いわての複式指導

実践事例集

岩手県教育委員会

はじめに

本県は、約3割の小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、岩手県教育振興計画の基本目標「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり」を推進するためにも、欠かすことのできない視点の1つとなっています。

ここ数年の状況を見ますと、県内の各地域において新たに複式学級を編成する学校があり、複式指導を初めて担当する教員への支援が課題となっています。

本県には、長年にわたり培われてきた複式指導に関する知識や技術が蓄積されており、各学校で直接指導と間接指導を組み合わせた不断の授業改善が進められております。

本実践事例集は、それらの優れた実践を広く共有することにより、本県の複式指導の充実を図ることを目的として、県内各地の実践からぜひ参考にしたいポイントをまとめております。

複式指導を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援する資料として活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育室

《 目 次 》

| | | |
|-------|-----------------------|----|
| 実践事例1 | 【社会3・4年】葛巻町立小屋瀬小学校 | 1 |
| 実践事例2 | 【算数3・4年】遠野市立附馬牛小学校 | 9 |
| 実践事例3 | 【算数3・4年】奥州市立黒石小学校 | 18 |
| 実践事例4 | 【算数3・4年】大船渡市立吉浜小学校 | 29 |
| 実践事例5 | 【算数3・4年】岩泉町立小本小学校 | 36 |
| 実践事例6 | 【算数1・2年】一戸町立鳥海小学校 | 40 |
| 実践事例7 | 【算数1・2年】岩手大学教育学部附属小学校 | 47 |
| 実践事例8 | 【社会5・6年】岩手大学教育学部附属小学校 | 52 |
| 実践事例9 | 【道徳3・4年】岩手大学教育学部附属小学校 | 58 |

社会 3・4年

葛巻町立小屋瀬小学校 令和5年6月27日(火)

第3学年 「店ではたらく人と仕事」
(教育出版「小学社会3年」P44～63)

第4学年 「ごみはどこへ」
(教育出版「小学社会4年」P28～49)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○ 課題設定とリーダー育成

4年生は学習リーダーを中心に授業を進められるようにしています。リーダーによる前時の振り返りの発表から、本時に向けての課題意識を高めていきます。【写真①】

3年生は1名在籍のため、担任とやり取りをしながら、本時の課題へと迫っていきます。生活経験を踏まえたり、教科書のイラストを基にしたりしながら、店の工夫を考える課題を把握していきます。【写真②】

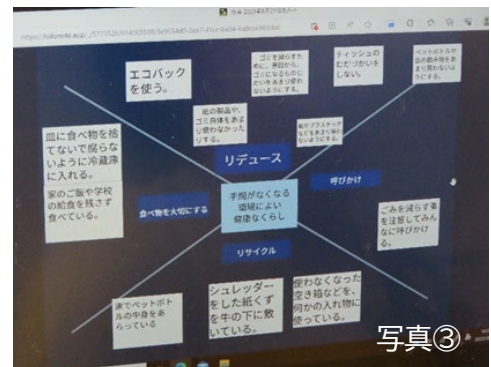


○ 児童に委ねる間接指導の在り方

4年生はごみ減量のために自分ができることをロイロノートに打ち込んでいきました。共同作業のため、お互いの考えがすぐに共有できます。

その後全体でXチャートを用いて、自分たちで4つのカテゴリーに分類しました。なぜ、そのカテゴリーに分類するのか、考えの根拠を大切にしながら、児童だけで分類することができました。【写真③】

分類後は、その項目がごみの減量という目的に繋がっているかどうかを確認しました。



3年生は、店の工夫について予想したことを同じくロイロノートに打ち込み分類していきます。予想しにくい場合は教師が例を挙げ、見通しをもたせました。【写真④】



ICT活用は、複式指導の間接指導においても、有効なツールです。自分で立てた予想に対して、課題を解決すべくタブレットを活用しながら、一人ひとりが「個別最適な学び」を行い、共同作業で「協働的な学び」を実現していくことが可能です。



○ 本単元を通して学んだことを生かし、自分の考えやその根拠をアウトプットする時間の確保

4年生は、授業の終盤にごみ減量のための宣言文を書き、発表を行いました。【写真⑤】

一人ひとりが、本単元での学びを振り返りながら、自分ができることは何か真剣に考え、自分の言葉で宣言文をまとめることができました。自分が今日からできることだけでなく、地域の方やごみ処理場で勤務されている方々の気持ちを考えて、宣言する児童もいました。



第3・4学年 社会科学習指導案

日 時 令和5年6月27日(火) 5校時
 場 所 3・4年教室
 児 童 3年 女子1名
 4年 男子6名 計7名
 指導者 日蔭 香奈子

| | 第3学年 | 第4学年 |
|-------------|---|---|
| 1 単元名 | はたらく人とわたしたちの暮らし 「店ではたらく人と仕事」 (教育出版3年p.44～63) | 健康なくらしとまちづくり 「ごみはどこへ」 (教育出版4年p.28～49) |
| 2 単元の目標 | <p>(1) 地域に見られる販売の仕事について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 「知識及び技能」</p> <p>(2) 販売に見られる仕事の工夫や特色、意味を考える力や、考えたことを表現する力を養う。 「思考力・判断力・表現力等」</p> <p>(3) 学習問題を追究・解決するために、地域に見られる販売の仕事の様子について意欲的に調べ、特色や相互の関連、意味について粘り強く考えたり、調べたことや考えたことを表現しようとしたりする主体的な学習態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」</p> | <p>(1) 廃棄物を処理する仕組みについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 「知識及び技能」</p> <p>(2) 廃棄物を処理する仕組みや処理に協力する人々の取り組みについて、それらが果たす役割を考え、廃棄物処理に見られる課題を把握して、その課題の解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 「思考力・判断力・表現力等」</p> <p>(3) 廃棄物の処理について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。 「学びに向かう力、人間性等」</p> |
| 3 単元について | (1) 単元について | |
| | <p>本単元は、学習指導要領(2)のア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)に関わるものである。</p> <p>児童の生活経験を出発点として、多様な仕事を知ることを始める。それぞれ何の仕事をしているかを確認し、これらの仕事と自分の生活との関連を考えていく。販売の仕事については、各家庭の買い物を可視化し、消費者ニーズに対応した店の工夫を追究していく。そこで、生産—販売—消費といった経済関係を捉え、自分たちの生活は販売・生産に携わる人々によって支えられていることを理解できるようにする。</p> | <p>本単元は、学習指導要領(2)のア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)に関わるものである。</p> <p>単元の導入で、自分たちの家庭から出るごみの量を調べる活動を通して暮らしのあり方を見直す。そこから、児童の気づきや問いを生み出し、ごみ処理が計画的・協力的に行われてきたことを理解できるようにする。ごみ処理をめぐる問題が、環境や資源をめぐる問題であることや、その解決が喫緊の課題であることを認識できるようにし、自分たちも協力していこうとする実践的態度にはたらきかけていく。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | (2) 児童について | |
| | (省略) | (省略) |
| | (3) 指導にあたって | |
| | 販売の仕事について、仕事の様子を捉えることは児童に身近なものとは言い難い。そこで、家の人の買い物調べをもとに、買い物の仕方に着目するところから学習を始める。商品を買うときの客の願いに店がどのように対応を工夫しているか捉え、販売の仕事に対する理解を深められるようにしていきたい。 | ごみ処理について知識としてまとめるだけでなく、学習を通して感じたことや考えたことをふり返る時間も大切にしてい。ごみ処理に関わる問題を身近な問題として捉え、ごみ減量のために自分にできることは何かを考え、それを社会生活に生かそうとする意識を高めさせていきたい。 |
| 4 単元 の 評 価 規 準 | 知識・技能 | |
| | ①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や関係図などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。 | ①廃棄物を処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などについて、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを関係図や文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 |
| | 思考・判断・表現 | |
| | ①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国とのかわりなどに着目して、問いを見だし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 ②消費者の願いと販売の仕方を比較・関連付けたり、わかったことを総合するなどして販売に携わっている人々の仕事に見られる工夫を考えたりして、適切に表現している。 | ①廃棄物を処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、廃棄物を処理するための事業の様子について考え表現している。 ②廃棄物を処理するための事業の果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、廃棄物を減らすために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| ① 地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 | ①廃棄物の処理について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、廃棄物を減らすために自分たちが協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、自らもごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。 | |

| 5 | 時 | ○ねらい ※評価規準（評価方法） | ※網掛けは、評価したことを記録に残す場面 |
|---------|-----------|---|---|
| 単元の指導計画 | 1 | ○地域で働く人に関心をもち、学習の見通しをもつことができるようにする。 ※教科書の写真をもとにそれぞれどのような仕事で働く人なのかを考え表現している。 (発言、ノート)【思-①】 | 1 ○身の回りのごみに着目して、自分たちの生活では様々な場所で多くの種類のごみが出ていることを捉える。 ※学校内で出るごみの種類や量、処理の仕方を調べ、学校生活では様々な場所で、多くの種類のごみが出ていることを理解している。 (発言、行動、ノート)【知-①】 |
| | 2 | ○家の人の買い物に関心をもち、行った店や買った品物などを調べて、カードにまとめる計画を立てることができるようにする。 ※家の人が買い物に行く店や買う商品について調べて、カードにまとめる計画を立てている。 (発言)【思-①】 | 2 ○家から出るごみに着目して、家からは様々な種類や量のごみが出ていること、ごみの収集にはきまりがあることを捉える。 ※家から出るごみを調べ、ごみの種類や出る量には様々な違いがあることや、ごみを収集に出す際にはきまりがあることを理解している。 (発言、ワークシート)【知-①】 |
| | 3 | ○買い物調べカードを集計し、店の位置や行った回数に着目して、店の分布や多くの人が行った店を調べ、その意味を表現することができるようにする。 ※買い物調べの集計をもとに、表やグラフに表し、その意味を表現しているか。 (発言、ワークシート)【思-①】 | 3 ○身の回りで出される様々な種類のごみが、どこでどのように処理されるのかについて調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。 ※家から出るごみの種類や量を調べ、ごみの収集方法や処理の仕方について問いを見出し、学習問題として表現している。 (発言、ノート)【思-①】 ※収集されたごみの処理について予想を話し合い、見通しをもち主体的に追究しようとしている。 (発言、行動)【態-①】 |
| | 4 | ○レシートに着目し、買い物の情報や店が売り上げを高める工夫を捉え、学習問題をつくることができるようにする。 ※レシートの情報から、店が売り上げを高める工夫について考え、学習問題をつくっている。 (発言、ノート)【思-①】 | 4 ○ごみの収集の様子に着目して、ごみを収集する際の工夫や収集に出す際のきまりを捉える。 ※ごみ収集の様子を資料を読み取り、ごみの量や種類、ごみを収集する際の工夫や収集に出す際のきまりを理解している。 (発言、ノート)【知-①】 |
| | 5 (本時) | ○学習問題について予想して、販売の仕事調べる学習の見通しを立てることができるようにする。 ※客の願いに店はどのような工夫をして対応しているか予想し、学習の見通しを立てて主体的に追究しようとしている。 (発言、ノート)【態-①】 | 5・6 ○清掃工場での燃やすごみの処理の仕方に着目し、処理の工夫について捉える。 ※清掃工場の資料を活用し、燃やすごみの処理の仕方や、処理の工夫について理解している。 (発言、ノート)【知-①】 |

| | | | |
|-----|---|----|---|
| 6・7 | <p>○スーパーマーケットの売り場の様子に着目して、様々な工夫とその目的を理解することができるようにする。</p> <p>※視聴覚教材や店内の様子を資料をもとに売り場の様子について調べ、必要な情報を集めている。(発言、ノート)【知-①】</p> | 7 | <p>○最終処分場での処理の仕方に着目し、処理の工夫について調べ、最終処分場での処理の工夫や抱える課題について捉える。</p> <p>※最終処分場での処理の仕方や処理の工夫を調べ、ごみを処理し続けるには、費用や用地の確保といった課題があることを理解している。(発言、ノート)【知-①】</p> |
| 8 | <p>○スーパーマーケットで働く人の資料から仕事の様子や気を付けていることを理解することができるようにする。</p> <p>※店には、販売の他に様々な仕事で働く人がいることを理解している。(発言、ノート)【知-①】</p> | 8 | <p>○資源ごみの処理の仕方に着目し、リサイクルとそれを進める上で大切な人々の取り組みについて捉える。</p> <p>※資源ごみの処理の仕方を調べ、資源ごみをリサイクルしていくためには人々の協力が必要であることを理解している。(発言、ノート)【知-①】</p> |
| 9 | <p>○商品の仕入れ先に着目し、それらが国内や外国にわたることを白地図にまとめて、他地域と広く関わっていることを理解できるようにする。</p> <p>※店は商品の仕入れを通じて、国内外の他地域とかかわっていることを理解している。(発言、ノート)【知-②】</p> | 9 | <p>○学習問題を確かめ、ごみの処理についてわかったことや自分の考えをまとめる。また、さらにわからないことを新たな学習問題として表し、学習の見通しをもつ。</p> <p>※学習問題を確かめ、ごみの処理の仕方や工夫について考えたことを表現し、さらにわからないことを新たな課題として表している。(発言、ノート)【思-①】</p> <p>※新たな学習問題を解決するための学習計画を立て、主体的に問いを追求しようとしている。(発言、ノート)【態-①】</p> |
| 10 | <p>○客や家の人の買い物の仕方に着目し、商品を買う時の願いに店に対応していることを整理・分析できるようにする。</p> <p>※消費者には様々な関心があり、販売者はそれらに対応していることを考え、両者のかかわりを整理・分類している。(発言、ノート)【知-②】</p> | 10 | <p>○ごみの量の変化と処理にかかる費用の変化に着目し、処理の仕方や人々の生活様式の変化について捉える。</p> <p>※ごみの量と処理にかかる費用の変化を人々の生活の変化と関わらせて考え、ごみを処理する事業が公衆衛生の向上に役立ってきたことを理解している。(発言、ノート)【知-②】</p> |
| 11 | <p>○店の仕事は客の願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫していることについて、関係図づくりを通じて考え、表現することができるようにする。</p> <p>※客の願いと店の工夫を関連づけて、関係図に表現している。(発言、ノート)【思-②】</p> <p>※これまでの学び方をふり返り、これからの学習に生かそうとしている。(発言、ノート)【態-①】</p> | 11 | <p>○ごみを減量するための取り組みを調べ、取り組む人々の思いに着目し、活動を続ける上で大切なことを捉える。</p> <p>※ごみを減量していくための工夫や努力、取り組む人々の思いを捉え、活動を続ける上で大切なことについて理解している。(発言、ノート)【知-②】</p> |

| | | | | |
|--|-----------|--|---|--|
| | 12 | ○スーパーマーケット以外の店や買い物の仕方に着目し、それぞれの利点を考え、よりよい消費行動について意識をもてるようにする。 ※スーパーマーケット以外の店や販売方法について調べ、今後の買い物の行動に生かそうとしている。(発言、ノート)【態-①】 | 12 | ○学習問題をふり返り、ごみを減量することのよさを考え表現する。 ※学習問題を確かめ、ごみの処理についてわかったことや自分の生活と関連づけて考えたことを表現している。(発言、ノート)【思-②】 |
| | 13 (構) | | ○ごみを減量するために自分にできることは何かを考え表現する。 ※ごみ処理や減量について自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして表現している。(発言、ノート)【思-②】 ※ごみ減量のために自分に協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、ごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。(発言、ノート)【態-②】 | |

6 本時の指導

(1) 目標と評価規準

| 3年生 | | 4年生 | |
|------|---|------|---|
| 目標 | 学習問題について予想して、販売の仕事を調べる学習の見通しを立てることができるようになる。 | 目標 | ごみを減量するために自分にできることは何かを考え表現する。 |
| 評価規準 | ・客の願いに店はどのような工夫をして対応しているか予想し、学習の見通しを立てて主体的に追求しようとしている。【態-①】 | 評価規準 | ・ごみ処理や減量について自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして表現している。【思-②】 ・ごみ減量のために自分に協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、ごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。【態-②】 |

(2) 指導にあたって

| 3年生 | 4年生 |
|--|--|
| 本時は、販売の仕事を調べるための学習の見通しを立てる時間である。まず、店は家の人の願いに合わせて様々な工夫をしていることをおさえ、課題につなげる。そして、買い物の経験を思い出させたり、教科書イラストの観察をもとにしたりしながら店の工夫を考えられるようにする。次に、いくつか出た考えをシンキングツールXチャートに分類することで、大きな視点で分類することのよさを感じさせたい。ここで分類したことが次時の学習につながることを確認し、見通しをもって追究できるようにしたい。 | 本時は、ごみ減量のために自分にできることを考える結びの時間である。自分たちの考えをシンキングツールXチャートに分類する場面では、学習してきたことを本時の課題と関連付けられるよう、考えの根拠を明らかにしながら位置づけさせていきたい。まとめの場面では、ごみ減量のための宣言文を書くことで、学習したことを社会生活に生かそうとする実践的態度にはたらきかけたい。 |

(3) 展開

| 3年生 | | 4年生 | | |
|---|---|-----|--|---|
| 指導上の留意点 | 学習内容・活動 | 形態 | 学習内容・活動 | 指導上の留意点 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・店は客の願いを踏まえて工夫していることをおさえ、課題につなげる。 ・前時につくった学習問題を確認し、本時では、学習問題を解決するための見通しを立てることを確認する。 | <p>1 お客(家族や先生)の願いを確かめる。(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一か所でいろいろな物を一度に買いたい。 ・新鮮でおいしいものを食べたい。 <p>2 課題を把握する。(1分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家の人や先生は、なぜ、スーパーマーケットによく行くのだろう。</p> </div> <p>3 見通しをもつ。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでも安く買いたい。→ねだんを下げる。 | | <p>1 前時の学習をふり返る。(3分)</p> <p>ごみが減ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理にかかる費用が少なくなる。 ・最終処分場を長く使い続けられる。 <p>2 課題を把握する。(2分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ごみをへらすために自分にできることを考えよう。</p> </div> <p>3 見通しをもつ。(1分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごみへらし隊」として何ができるかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを示し、学習リーダーを中心に学習を進められるようにする。 ・前時の学習をふり返り、課題につなげる。 ・ごみ減量のための宣言文をまとめとして書くことを確認する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・タイピング操作の負担を減らすため、イラストの写真を撮って貼り付けても良いこととする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>客の願いに店はどのような工夫をして対応しているか予想し、学習の見通しを立てて主体的に追求しようとしている。 (発言、ノート)【態-①】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・分類が難しそうな場合は、例を挙げ、見通しをもたせられるようにする。 | <p>4 お客の願いに合わせたお店のくふうについて予想したことをロイロノートに打ち込む。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほしい商品がどこにあるか分かるように表示がある。 ・魚や肉、本などが同じ売り場にある。 ・駐車場がある。 ・作りたて・切りたてを買うことができる。 ・同じ商品でも種類がたくさんある。 <p>5 シンキングツール X チャートに予想进行分类する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねだん ・品ぞろえ ・新鮮さ ・べんりさ | | <p>4 ごみ減量のために自分にできることをロイロノートに打ち込む。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグを持ち歩く。 ・収集に出すときは、分別をきちんとする。 ・ペットボトルをきれいにしてから収集に出す。 ・食べ物を残さない。 ・ごみ減量のためのポスターを作る。 <p>5 全体でそれぞれの考えをシンキングツール X チャートに分類する。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飲み物を水筒に入れる。」と「マイバッグを使う。」は、<u>ペットボトルやレジ袋のごみそのものを減らすからリデュースになると思う。</u> ・「分別をきちんとする。」と「ペットボトルの中を洗って出す。」は、<u>リサイクルにつながる</u>ことだと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が実践しているごみ減量のための取り組みを紹介し、考えの参考にできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ごみ処理や減量について自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして表現している。 (発言、ノート)【思-②】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠を大切に位置づけをさせる。 ・分類した項目がごみ減量につながることを確認することかを確認する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの視点として、わかったことや調べてみたいことを与える。 | <p>6 本時のまとめをする。(9分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 家の人や先生がスーパーマーケットによく行くのは、4つのことが理由になりそう。お店のひみつを調べたい。</p> </div> | | <p>6 本時のまとめをする。(9分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 資源ごみを出すときは、よごれを落として出すようにしたい。なぜなら、そうすることで働く人の手間が減ってリサイクルにもつながるから。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量のために自分に協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、ごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。 (発言、ノート)【態-②】 |

(4) 板書計画

黒板

ごみをへらすために自分にできることを考えよう。

「ごみへらし隊」として宣言します！
 ぼくは、ごみをへらすために _____ (取り組み) _____。
 なぜなら、_____ (理由) _____。

家の人や先生は、なぜ、スーパーマーケットによく行くのだろう。

お客様

- 一かしょでいろいろな物をいちどに買いたい。
- しんせんでおいしい物を食べたい。
- 車で行きたい。
- 商品場所を知りたい。
- ひつような分だけほしい。
- だれが、どこで作ったかを知りたい。

お店の人

店では、お客様がもめているものや、よろこぶことを、いつも考えています。それに合わせて、さまざまなくふうをしています。

今日の学習でわかったこと・調べてみたいこと

ロイロノート (3年)

家の人や先生は、なぜ、スーパーマーケットによく行くのだろう。

家の人や先生がスーパーマーケットによく行くのは、4つのことが理由になりそう。お店のひみつを調べたい。

ロイロノート (4年)

ごみをへらすために自分にできることを考えよう。

算数 3・4年

遠野市立附馬牛小学校 令和5年9月20日(水)

第3学年 数の表し方やしくみを調べよう
(東京書籍「新しい算数3下」P10)

第4学年 小数のしくみを調べよう
(東京書籍「新しい算数4上」P84)

本実践のポイント

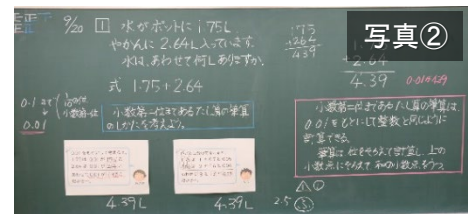
※指導案は次ページに掲載

○「共通導入」「共通終末」における学びの充実

本時は、3年生も4年生も小数のたし算の仕方について学習する場面であり、導入では、お互いにそれぞれの学年の問題を確認し、どんな式になりそうかを考えたうえで、これまでの学習と違うところを考える活動を取り入れました。この活動により、2つの学年の学習内容に共通性を見出すだけでなく、既習との違いを明確にすることで、本時の学びを焦点化することにつながりました。【写真①】



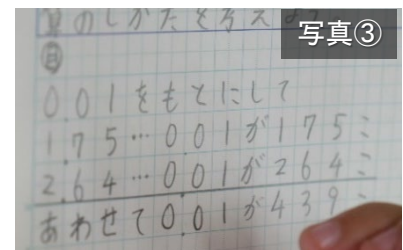
終末の場面では、それぞれの学年の振り返りや板書の内容を共有し、共通性や連続性、発展性という視点から学習のまとめを行いました。共通導入からの互いの学習の成果を実感し、学級に一体感が生まれました。【写真②】



学び方に連続性を見出しながら課題を設定してねらいを共有したり、学習内容を確認し合っ
てまとめを共有したりすることで、下学年の児童も上学年の児童も学習内容の系統性を明確に意識することができます。見通しや学び合いにおいて子どもたちが働かせた見方や考え方を板書に位置づけ顕在化することで、より共通性や発展性に気づきやすくなります。

○視点と意図を明確にした学び合いの充実

本校では「小規模・複式指導において学び続ける児童の育成」を研究主題に掲げ、研究の手立ての1つとして「視点と意図を明確にした交流」に取り組んでいます。本時の学習では、4年生の間接指導時において、自力解決における個々の考えを説明した後、学習リーダーの児童が「みんなの考えで共通点や違うところはありませんか。」と投げかけました。学習リーダーを中心にして学び合いを行い、「筆算や言葉の説明など方法は違うけれど、0.01をもとにして考えているところは同じである」ということに気づきました。【写真③④】



3年生では直接指導時における学び合いの中で、教師と一緒に1Lますの図や数直線の考えから共通点を見出しました。学び合いの視点を明確にすることで、両学年とも「もとにする大きさのいくつ分で考える」という大事な見方や考え方を引き出すことにつながりました。

特に間接指導における学び合いにおいては、個々の考えを説明するにとどまることなく、児童同士で学び合いを深めていく必要があります。話し合いの視点や目的を児童と共有することで、より焦点化した学び合いにつなげることができます。

| 目指す授業像(本学区では、共通してどんな授業を目指すのか) | | |
|--|--|---|
| 視点1「課題意識の持続の工夫」 | 視点2「達成状況の把握の工夫」 | 視点3「交流の工夫」 |
| 学習課題を自分事として考え最後まで学習に取り組むため、児童生徒の必要感や目的意識等が単元を通して持続する授業 | 授業者と児童生徒が、「単元で目指す児童生徒の姿(付けるべき資質・能力を身に付けた姿)」を明確に共有し、その達成状況について適切な場面と方法で捉え、評価がなされる授業 | 自分の考えを自らの言葉・学習用語・図・式などを使って表現し、互いに聴き合い、学びを広げ、深める授業 |
| 【現時点での課題(授業者・学習者)】 ・常に課題を意識して学習させられるようにするための、児童の興味関心、疑問等に基づいた単元や授業構想。 ・粘り強く学習できるような見通しの持たせ方。 | 【現時点での課題(授業者・学習者)】 ・目指す姿やその達成状況を把握する(把握させる)ための有効な方法、評価のタイミング。 ・複式授業における間接指導時の達成状況の把握の仕方。 | 【現時点での課題(授業者・学習者)】 ・自分なりの考えをもち、考えを深めたり広めたりできるような学び合いの場の工夫、リーダーの育成。 |

| 3・4学年 算数科 単元指導計画 | | |
|--|---|--|
| 令和5年9月20日(水)3時間目 授業者 阿部 良子 | | |
| 3学年(男子2名 女子3名 計5名) | 4学年(女子5名 計5名) | |
| 単元名 数の表し方やしくみを調べよう (東京書籍3年 下) | 単元名 小数のしくみを調べよう (東京書籍4年 上) | |
| 1 単元の目標 (何ができるようになるか) | | |
| | 3学年 | 4学年 |
| 〔知識及び技能〕 | 小数の意味や表し方について理解し、加法及び減法の計算をすることができる。 | 小数の意味や表し方について理解し、加法及び減法の計算をすることができる。 |
| 〔思考力、判断力、表現力等〕 | 数学的表現を適切に活用して小数の表し方や仕組み、計算の仕方を整数の十進構造と関連付けて考えることができる。 | 数学的表現を適切に活用して小数の仕組みや計算の仕方を考えることができる。 |
| 〔学びに向かう力、人間性等〕 | 小数の意味や表し方について振り返り、今後の学習や生活に活用しようとしている。 | 十進位取り記数法を基に整数や小数の仕組みを考えた過程を振り返り、日常生活に活用しようとしている。 |
| 2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」 (何を通して育成するのか) | | |
| 小数も整数と仕組みが同じであることに着目し、加法や減法を用いて表すことや、もとにする数や位に注目して表すことを通して考えを説明する。 | 小数の意味や仕組み、加法・減法の意味や計算の仕方を考える際に、具体物、面積図や数直線などの図、言葉、式などの数学的表現を用いて考えたり説明したりする。 | |

| 3 単元の評価規準 | | (何が身に付いたか) |
|------------------|---|--|
| | 3学年 | 4学年 |
| 〔知識・技能〕 | <p>①端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知っている。</p> <p>②小数の表し方及び$\frac{1}{10}$の位について知っている。</p> <p>③量を測定する単位の構成が、十進構造になっていることについて理解している。</p> <p>④$\frac{1}{10}$の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知っている。</p> | <p>①$\frac{1}{100}$の位、$\frac{1}{1000}$の位の小数の表し方やしくみについて理解し、それらを活用して加法や減法の計算をすることができる。</p> <p>①$\frac{1}{10}$の位、$\frac{1}{100}$の位と範囲が拡張された小数を知り、小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知っている。</p> <p>②1.2を0.1が12個集まった数とみるなど、数の相対的な大きさから、小数をとらえることができる。</p> <p>③小数の加法及び減法についての理解を深めている。</p> <p>④$\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。</p> |
| 〔思考・判断・表現〕 | <p>①小数の大きさについて、図や数直線を用いて表したり、0.1の幾つ分かを考えたりして、大きさを比べたり、小数の加法及び減法の計算の仕方を考えたりしている。</p> <p>②小数やその計算が日常生活にも使えることに気付いている。</p> | <p>①端数部分の大きさを小数で表すとき、0.1の単位をつかったときの考えを基に、0.01の単位をつくることを考えている。</p> <p>②$\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などと関連付けて考えている。</p> <p>③小数やその計算が日常生活にも使えることに気付いている。</p> |
| 〔主体的に学習に取り組む態度〕 | <p>①小数でも数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうか考えたことを振り返り、0.1の幾つ分と見ることによって整数と同じ見方ができることに気付き、次の学習に活用しようとしている。</p> <p>②端数部分の大きさを表すことができるというよさに気付き、身の回りから、小数が用いられる場面を見つけようとしている。</p> | <p>①小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法の仕組みで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。</p> <p>②小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されているから同じように計算できるというよさに気付き、小数の計算の仕方を考えようとしている。</p> |
| 4 「3つの視点」による授業改善 | | (どのように学ぶか) |
| | 3学年 | 4学年 |
| 視点1 | <p>「課題意識の持続」</p> <p>①小数と日常の生活場面とをかかわらせたり、活用場面を想起させたりして興味・関心を高める。</p> <p>②前時までの児童の振り返りを紹介したり、既習との共通点・相違点に気付かせたりして学びのつながりを意識させるとともに、本時の見通しをもたせる。</p> | |
| 視点2 | <p>「達成状況の把握」</p> <p>①間接指導時に考えを出し合う際、自分の考えと友達の違いが区別できるようなノートの取り方をさせ、考えの変容を見取る。</p> <p>②両学年の学習過程をずらし、両学年同時に間接指導の時間を設定するなど、学習状況に応じた指導の工夫をする。</p> <p>③振り返りの場面で、自己の考えの変容を自覚したり、次時につなげたりできるように、振り返りの視点を指定する。</p> | |
| 視点3 | <p>「交流の工夫」</p> <p>①本時につながる児童の振り返りや、既習の掲示物を活用し、既習との共通点や相違点などを話し合い、問いを引き出す。</p> <p>②間接指導時、学習リーダーが中心となって、互いの考えを伝え合ったり、悩んでいる友達の考えに補足したり、考えをまとめたりさせる。</p> <p>③目的に合わせ、ペア・グループ・全体・異学年、それぞれの形態を選んで交流を行う。</p> | |

| 5 【3学年】単元の指導と評価の計画(全12時間) | | | (単元をどうデザインするか) |
|---------------------------|--|--|--|
| 時間 | 本時の目標 | 学習活動 | ・指導上の留意点 評価規準〔評価方法〕 ●指導に生かす評価 ◎記録に残す評価 |
| 1 | ○整数で表せない端数部分の大きさの表し方を、既習の数の仕組みや単位の学習に着目して考え、説明することができる。 | ・p.2 の写真を提示し、身の回りにある数の並びが同じで小数点のあるものとなないものの数を話題として取り上げ、話し合い活動を通して、小数の表し方や仕組みを理解するという単元の課題を設定する。 ・水を1Lのますではかったときの1Lに満たないはしたのかさの表し方を考える。 ・1Lを10等分した1こ分のかさを「0.1L」ということを知る。 ・はしたのかさはその3こ分で0.3L、1Lと合わせて1.3Lになることを知る。 | ・既習内容との共通点や相違点について話し合うことを通して、この単元を学習する意欲を引き出す。(視点1・3) ・1cmではかれないときには、大きい単位を10等分して1mmの単位をつくってはかったことを想起させ、今回も10等分すればよいと考えられるようにする。(視点1) ◎【知・技①】ノート・観察 ●【思・判・表①】ノート・観察 |
| 2 | | ・前時の学習を振り返りながら小数を使ってはしたの大きさを表す。 ・用語「小数」「小数点」「整数」を知る。 | ・前時の学習で、1Lを10等分した0.1Lを使って水のかさを表したことを振り返らせ、本時の見通しをもたせる。(視点1) ●【知・技②】ノート・観察 ●【思・判・表①】ノート・観察 |
| 3 | ○長さ(cm)の端数部分の表し方を水のかさを小数で表したことに基いて考え、説明することができる。 | ・8cm7mmのテープの長さをcm単位で表すことを考える。 ・長さや重さの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。 | ・0.1Lのつくり方に着目させ、長さについても同じように1cmを10等分すればよいことに気付かせる。(視点1・3) ◎【知・技②】ノート・観察 ●【思・判・表①】ノート・観察 |
| 4 | ○数直線の1目盛りの大きさに着目して、数直線上の小数を表す目盛りを読んだり、小数を数直線に表したりする方法を考え、説明することができる。 | ・数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。 ・小数の相対的な大きさについて考える。 | ・整数を表した数直線を想起させ、数直線の読み方を振り返らせる。(視点1・3) ・1目盛りが0.1になっていることを意識させ、「0.1の何こ分」ということが明確になるように説明をさせる。(視点3) ●【思・判・表①】ノート・観察 ◎【態度①】ノート・観察 |
| 5 | ○用語「小数第一位」を知り、小数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 | ・147.2の構成について考える。 ・用語「小数第一位」を知る。 ・位取り板と数カードを使って、147.2の構成をとらえる。 | ・既習の数の仕組みを振り返り、小数の位や数の構成も同様であることをおさえさせる。(視点1) ◎【知・技③】ノート・観察 |
| 6 | ○小数の大小関係について理解する。 | ・数直線を使って、小数の大小を考える。 ・小数の大小を比較する時には、整数の場合と同じように、位の数字に着目すればよいことをまとめる。 | ・整数の大小関係と同様に、数直線や数の仕組みを想起させ、本時の見通しをもたせる。(視点1) ◎【思・判・表①】ノート・観察 |
| 7 (本時) | ○小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位どうしの小数の加法の計算方法を考え、説明することができる。 | ・場面をとらえ、立式する。 ・ $0.3+0.2$ の計算の仕方を、0.1を基にして $3+2$ の計算に帰着して考える。 ・既習の $30+20$ と $0.3+0.2$ を統合的にとらえる。 | ・1Lますの図を提示し、目盛りに着目させることで、0.1を単位として考え、既習の整数の加法に帰着する計算の仕方を説明できるようにする。(視点1・3) ●【知・技④】ノート ●【思・判・表②】ノート・観察 |
| 8 | ○小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考え、説明することができる。 | ・場面をとらえ、立式する。 ・前時の学習を使って、 $0.5-0.2$ や $1-0.4$ の計算の仕方を考える。 ・前時と同様に、 $0.5-0.2$ の計算を、0.1を基にして $5-2$ の計算に帰着して考える。 ・0.1を基にすると、小数の加減法の計算は整数の加減法の計算方法に帰着して考えられることをまとめる。 | ・前時の学習をもとに、減法も0.1の何こ分かを考えることで、既習の整数の計算に帰着して計算できることに気付かせる。(視点1・3) ●【知・技④】ノート ●【思・判・表②】ノート・観察 |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 9 | ○小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し、それらの計算をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・$2.5+1.8$ の筆算の仕方を考える。 ・小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方をまとめる。 ・$4.3-1.8$ の筆算の仕方を考える。 ・$1.2+2.8$、$4.2-3.5$、$5-1.4$ の筆算の仕方を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数の筆算の仕方を想起させ、位を揃えて計算したことを確認する。小数も0.1を基にすると、整数の筆算と考えられることから、小数の筆算の仕方に見通しをもたせる。(視点1・3) ◎【知・技④】ノート ●【思・判・表①】ノート・観察 |
| 10 | ○小数の仕組みや数の構成に着目し、小数について多様な見方や表し方を考え、表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2.8 を数直線に表し、いろいろな見方や表し方を考える。 ・他者の考えを読み取り、図や式や数直線で表す。 ・2.8 は、数の構成や相対的な大きさを基にするといろいろな表し方ができることをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数の場合の見方や説明の仕方をもとにし、小数についても同様に数直線や言葉、式を使って説明させる。(視点1・3) ◎【思・判・表①】ノート・観察 |
| 11 | ○単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 | <ul style="list-style-type: none"> 【いかしてみよう】 ・小数を用いて表された身の回りの道のりや距離を読み取り、問題解決に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小数を日常生活でも使っていこうとする態度を養うとともに、判断に至る理由を説明させながら学習内容の定着を確かめる。(視点1・2・3) ◎【思・判・表②】ノート・観察 ◎【態度②】ノート・観察 |
| 12 | ○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の振り返りをさせることで達成状況の把握をする。(視点2) ◎【知・技②③④】ノート ●【思・判・表①】ノート・観察 |

| 5 【4学年】単元の指導と評価の計画(全13時間) | | | (単元をどうデザインするか) |
|---------------------------|---|---|---|
| 時間 | 本時の目標 | 学習活動 | ・指導上の留意点 評価規準〔評価方法〕 ●指導に生かす評価 ◎記録に残す評価 |
| 1 | ○ $\frac{1}{10}$ の単位に満たない大きさの表し方を理解し、 $\frac{1}{100}$ の位までの小数の書き方、読み方を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・p.74 の写真を提示し、身の回りから小数表示のものを話題として取り上げる活動を通して、数には小数第一位未満のものもあることに気づくとともに、小数の仕組みや表し方について理解を深めるという単元の課題を設定する。 ・ポットに入る水のかさを調べ、0.1L より小さいはしたの表し方を考える。 ・$\frac{1}{100}$の位までの小数の書き方と読み方をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで使われている小数を想起し、既習内容を振り返るとともに、未習の小数もあることに気づき、小数の学習への関心を高める。(視点1) ・$\frac{1}{100}$の位の小数が$\frac{1}{10}$の位の小数や整数とどのような関係にあるのかを数直線を用いて説明できるようにする。(視点1・3) ●【知・技①】ノート・観察 ●【態度①】ノート・観察 |
| 2 | ○ $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の書き方、読み方を知り、小数の表し方について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の線路の幅の1.435mという数について、それぞれの位の数字が表す大きさを調べる。 ・0.001mの書き方と読み方を知る。 ・$1\text{km}325\text{m}$をkm単位で表し、単名数の表し方を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起させ、同じようにしてさらに10等分するという見通しをもたせる。(視点1・3) ●【知・技①】ノート・観察 |
| 3 | ○既習の整数の仕組みに着目して、 1 と 0.1 、 0.01 、 0.001 の関係を考え、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1、10、100、1000の関係を確認する。 ・1、0.1、0.01、0.001の関係を面積図を用いて調べる。 ・4.384の数の構成を調べる。 ・4.384の位取りを調べる。 ・「$\frac{1}{100}$の位(小数第二位)」「$\frac{1}{1000}$の位(小数第三位)」の意味を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「関係」とはどのような意味なのかを整数の場合を想起して確認する。(視点1・3) ・位取りの表を使いながら小数の構成や位取りなどを明確に説明させる。(視点1・3) ◎【思・判・表①】ノート・観察 |

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| 4 | ○十進位取り記数法を用いて、小数の大小関係について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・位取りの表を用いて小数の大小を比べる。 ・数直線の1目盛りの大きさに着目して、小数を数直線に表す。 ・小数の大小関係を不等号に表す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数や既習の$\frac{1}{10}$の位までの小数の学習を想起し、同じ仕組み・方法になっていることに気付かせ、本時の見通しをもたせる。(視点1) ●【思・判・表①】ノート・観察 ◎【態度①】ノート・観察 |
| 5 | ○位の変わり方に着目して、小数を10倍した数や $\frac{1}{10}$ した数について考え、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・0.74を10倍した数や$\frac{1}{10}$にした数を、位取りの表を用いて数の並び方を比べる。 ・小数を10倍した数や$\frac{1}{10}$にした数についてまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・位が1桁ずつ上がったり下がったりする整数の仕組みを想起させ、本時の見通しをもたせる。(視点1) ●【知・技②】ノート・観察 ●【思・判・表①】ノート・観察 |
| 6 | ○面積図を用いて、0.01の大きさに着目して、小数の相対的な大きさについて考え、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2.45は0.01の何こ分か、面積図を見て考える。 ・0.01を基に、小数の数の大きさについて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数の仕組みや位取りを想起させ、本時の見通しをもたせる。(視点1) ●【知・技②】ノート・観察 ◎【思・判・表①】ノート・観察 |
| 7 (本時) | ○ $\frac{1}{100}$ の位、 $\frac{1}{1000}$ の位の小数の加法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1.75+2.64の計算の仕方を考える。 ・小数の加法の筆算の場合も整数の加法の筆算のように位を揃えて筆算すればよいことをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{1}{10}$の位どうしの計算の仕組みを想起させ、本時の見通しを持たせる。(視点1) ・第7時では0.01を基にしたことを想起して、0.001を基にして考えるという本時の見通しを持たせるとともに、桁数が多くても位を揃えて整数と同じように計算すればよいことを説明させる。(視点1・3) ●【知・技③】ノート ●【思・判・表②】ノート・観察 |
| 8 | | <ul style="list-style-type: none"> ・和の0.800は0.8であることを確かめる。 ・小数の桁数が揃っていない場合の筆算の仕方を考える。 | |
| 9 | ○ $\frac{1}{100}$ の位、 $\frac{1}{1000}$ の位の小数の減法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3.64-2.76の計算の仕方を考える。 ・小数の減法の筆算の場合も整数の減法の筆算のように位を揃えて筆算すればよいことをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・形式的に方法を覚えるのではなく、0.01が何こ分かを求めるために整数のたし算やひき算と同じように計算していることを説明させる。(視点1・3) ◎【知・技③④】ノート ◎【思・判・表②】ノート・観察 |
| 10 | | <ul style="list-style-type: none"> ・小数の桁数が揃っていない場合の筆算の仕方を考える。 ・「ますりんつうしん」を読み、小数の歴史について関心を持つ。 | |
| 11 | ○小数の見方について、既習の数直線や多様な数の表し方を基に考え、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3.45を数直線上に表す。 ・整数と小数の和で見たり、0.01の何こ分ととらえたりするなど、3.45のいろいろな表し方を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小数と整数は仕組みが同じなので、同じ見方ができると、式に表すと、どんな見方をしたのかがわかりやすいという式のよさを説明させる。(視点1・3) ◎【思・判・表①】ノート・観察 |
| 12 | ○単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 | <ul style="list-style-type: none"> [いかしてみよう] ・小数や長さの単位変換を活用し、問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを日常生活でも使っていこうとする態度を養うとともに、判断に至る理由を説明させながら学習内容の定着を確かめる。(視点1・2・3) ◎【思・判・表③】ノート・観察 ●【態度①②】ノート・観察 |
| 13 | ○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の振り返りをさせることで達成状況の把握をする。(視点2) ●【知・技②③④】ノート ●【思・判・表①②】ノート・観察 |

| 6 本時の展開 | | (本時をどうデザインするか) | | | | |
|--|---|----------------|------|----|---|--|
| 第3学年 | | | 第4学年 | | | |
| 指導上の留意点 | 学習内容 | 段階 | 形態 | 段階 | 学習内容 | 指導上の留意点 |
| <p>【視点1:課題意識の持続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習との共通点、相違点を視点として話し合うことで、課題につなげる。 <p>・1L ますの図を提示し、目盛りに着目させることで0.1を単位として考えられるようにする。</p> <p>・0.1の何こ分かに着目し、3+2の計算に帰着して考えさせる。</p> | <p>1 問題を把握する。</p> <p>(1)問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ジュースが、大きいびんに0.3L、小さいびんに0.2L入っています。あわせて何Lありますか。 </div> <p>・加法の問題場面であることを確認。</p> <p>・立式する。</p> <p>(2)課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小数のたし算のしかたを考えよう。 </div> <p>(3)見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.1Lの何こ分で考える。 整数のたし算で考える。 数直線で考える。 位取り表を使う。 | 導入 | 7分 | 導入 | <p>1 問題を把握する。</p> <p>(1)問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水がポットに1.75L、やかんに2.64L入っています。水は、あわせて何Lありますか。 </div> <p>・加法の問題場面であることを確認。</p> <p>・立式し、答えの見当をつける。</p> <p>(2)課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小数のたし算のしかたを考えよう。 </div> <p>(3)見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 位ごとに分けて考える 0.01の何こ分で考える | <p>【視点1:課題意識の持続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習との共通点、相違点を視点として話し合うことで、課題につなげる。 |
| | <p>【視点2:達成状況の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えたことを図や文などを用いてノートに書かせ、自分なりの考えを持たせる。→交流を通して変化した考えも書かせる。 <p>【視点3:交流の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点を提示する。 学習リーダーを中心に、互いの考えを伝え合ったり、悩んでいる友達考えに補足したり、考えをまとめたりさせる。 | | | | <p>2 課題を解決する。</p> <p>(1)自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 図、数直線、文などを使って答えを求める。 答えが0.5になる理由を説明できるようにする。 <p>(2)全体交流</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えの共通点やよさを話し合う。 | 展開 |
| <p>・30+20も3+2に帰着して計算したことを想起させ、統合的にとらえられるようにする。</p> <p>●【知・技④】ノート 小数第一位どうしの加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。</p> <p>●【思・判・表②】ノート・観察 小数の仕組み(0.1の何こ分)に着目し、少数第一位どうしの加法計算の仕方を整数の計算に帰着して考え、説明している。</p> | <p>3 学習したことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> 小数のたし算は、0.1をもとにして整数のたし算と同じように計算すればよい。 </div> <p>4 適用問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題②③ | 展開 | 35分 | 展開 | <p>3 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> 小数のたし算は、0.01をもとにして整数のたし算と同じように計算すればよい。 筆算は、位をそろえて書き、和の小数点もうつ。 </div> <p>・小数点を揃えるという操作は、位を揃えることであることに気づかせ、正しく筆算を書き、下の位から順に、位ごとに計算すればよいことを価値づける。</p> | |
| <p>・30+20も3+2に帰着して計算したことを想起させ、統合的にとらえられるようにする。</p> <p>●【知・技④】ノート 小数第一位どうしの加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。</p> <p>●【思・判・表②】ノート・観察 小数の仕組み(0.1の何こ分)に着目し、少数第一位どうしの加法計算の仕方を整数の計算に帰着して考え、説明している。</p> | <p>4 適用問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> (・ほじゅうのもんだいト) | | | | 展開 | 35分 |

| | | | | |
|---|---|------------------|---|---|
| <p>【視点3:交流の工夫】 ・3年生の黒板を見て、共通点を考えさせることで、学びがつながっていることに気付かせる。</p> <p>【視点2:達成状況の把握】 ・振り返りの視点を指定する。(2・5)</p> | <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 異学年交流 ・互いの学年の学習内容の共通点を話し合う。</p> <p>(2) 振り返り</p> | <p>終末 5分</p> | <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 異学年交流 ・互いの学年の学習内容の共通点を話し合う。</p> <p>(2) 振り返り</p> | <p>【視点3:交流の工夫】 ・3年生の黒板を見て、共通点を考えさせることで、学びがつながっていることに気付かせる。</p> <p>【視点2:達成状況の把握】 ・振り返りの視点を指定する。(2・5)</p> |
| <p>7 板書計画等 (学びの可視化をどうデザインするか)</p> | | | | |

【3学年】黒板

⑩ ジュースが、大きいびんに0.3L、小さいびんに0.2L入っています。
あわせて何Lありますか。

⑨ 小数のたし算のしかたを考えよう。

⑧ 小数のたし算は、0.1をもとにして整数のたし算と同じように計算すればよい。

式 $0.3 + 0.2$

(教科書の図)

0.1Lの□こ分 0.1Lの□こ分

0.3L … 0.1Lが 3こ

0.2L … 0.1Lが 2こ

0.1Lが $3+2=5$ で 5こ → 0.5L

②

③

30+20は、10をもとにして、3+2の計算で考えられるのと同じ!

【4学年】黒板

⑩ 水がポットに1.75L、やかんに2.64L入っています。
水は、あわせて何Lありますか。

⑨ 小数のたし算のしかたを考えよう。

○位をそろえて書く。

○整数のたし算と同じように計算する。

○上の小数点にそろえて、和の小数点をうつ。

たし算
式 $1.75 + 2.64$

見当
 $1+2=3$ だから 3L よりは多い。
 $2+3=5$ だから 5L よりは少ない。

(教科書の図)

答え 4.39L

⑧ 小数のたし算は、0.01をもとにして整数のたし算と同じように計算すればよい。
筆算は、位をそろえて書き、和の小数点もうつ。

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）

| 視点1「課題意識の持続」 | 視点2「達成状況の把握」 | 視点3「交流の工夫」 |
|---|---|--|
| <p>学習課題を自分事として考え最後まで学習に取り組むため、児童生徒の必要感や目的意識等が単元を通して持続する授業</p> | <p>授業者と児童生徒が、「単元で目指す児童生徒の姿（付けるべき資質・能力を身に付けた姿）」を明確に共有し、その達成状況について適切な場面と方法で捉え、評価がなされる授業</p> | <p>自分の考えを自らの言葉・学習用語・図・式などを使って表現し、互いに聴き合い、学びを広げ、深める授業</p> |
| <p>【協議や助言の内容】</p> | <p>【協議や助言の内容】</p> | <p>【協議や助言の内容】</p> |
| <p>【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】</p> | <p>【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】</p> | <p>【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】</p> |
| <p>（授業者所感・今後の実践に向けて）</p> | | |

算数 3・4年

奥州市立黒石小学校

令和5年9月12日(火)

第3学年 数の表し方やしくみを調べよう
(東京書籍「新しい算数3下」P11)

第4学年 小数のしくみを調べよう
(東京書籍「新しい算数4上」P85)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○「交流場面」における学びの深まり

温かな学級経営による良好な人間関係の中、どの児童も安心して学習に取り組んでいました。

3年生は、児童の実態に応じ、自力解決の際のプリントへの書き込みをペアで行いました。【写真①】下学年からペアやグループによる学び方を身に付けてきた児童は、自然に友達と関わり合いながら学ぶ様子が見られました。

4年生は、前時との違いをもとに課題を明確にすることで、主体的に友達と相談したり、教え合ったりする姿が見られました。また、間接指導時には、担任が作成した学習ガイドを活用することで、リーダーを中心に自分たちで学習を進めることができました。

どちらの学年も、少人数学級のよさを生かし、自分の考えを発表する場が全員に保障されていました。

【写真②】



校内研究の主題「進んで仲間と関わり合い、学ぶ喜びを感じられる子どもの育成」に向け、友達との関わりを大切に学級経営を行っていることで、本時においても自然な関わりから学びが深まっていました。発表する場を全員に保障することは、より確かな評価につながり、一人一人の学習意欲を高めることができます。

○共通の見方・考え方を働かせる工夫

「算数の言葉」として、単元を通して働かせたい見方・考え方を明示し、場合に応じて黒板に示す等の工夫を行っていました。これにより、共通導入の際に、どちらの学年も「0.1や0.001をもとにする考えを使えば、本時の問題を解決することができそうだ」という見通しをもつことができました。【写真③】

共通終末では、お互いの学年の振り返りを聞き合う中で、数の相対的な大きさについての理解を深め、3年生にとっては発展的に、4年生にとっては統合的に考えることができました。



単元を通して、数学的な見方・考え方をどのように児童が働かせていくか、見通しをもって授業を行うことは極めて重要です。本実践のように、複式指導のよさを生かし、どちらの学年にも共通する見方・考え方に着目させることは、統合的・発展的な考えをもたせるために有効な手立てと言えるでしょう。

第3・4学年 算数科（複式）学習指導案

日時 令和5年9月12日（火）3校時

児童 3年生 4名（特支児童1名含む）

4年生 6名 計10名

指導者 三好和枝

〔3年生〕

1 単元名

「12 数の表し方やしくみを調べよう」

（小数 東京書籍 3年下）

2 単元について

（1）教材について

児童は第2学年で、4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について学習してきた。また、数を十や百の単位としてみるなど数の相対的な大きさについて理解してきた。

本単元では、既習の整数の仕組みを基にして、小数第1位までの小数の表し方や仕組み、加減法の計算の仕方を理解し、それをを用いる力を育てる。つまり、既習の数の仕組みに着目し、小数においても、表し方や仕組み、加減法の計算方法を統合的に考えた過程を振り返り、活用しようとする態度などを育てる。

（2）児童について

（省略）

〔4年生〕

1 単元名

「5 小数のしくみを調べよう」

（小数のしくみ 東京書籍 4年上）

2 単元について

（1）教材について

児童は第3学年で、端数部分の大きさを表すのに小数を用いることや小数の表し方及び1/10の位について知った。また、数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるか考えた。

本単元では、扱う小数の範囲を1/1000の位まで拡張して、小数の意味や表し方、加法や減法の計算についての理解を深め、それをを用いる力を育てることをねらいとしている。数の範囲を拡張しても、小数も整数同様十進構造になっているので、表し方も計算の仕方も整数と同じ考えで進めることができるということに気づくことがポイントとなる。

（2）児童について

（省略）

(3) 指導について

第1小單元では、既習の単位の学習に着目して体積や長さの端数部分の表し方を考えながら、小数の意味や表し方、数としての小数について学習する。整数では、単位の個数が10になると1つ大きな単位に置き換えたので、単位を小さくするにはその逆をすればよいと考えて、10等分して1つ小さな単位をつくっていくという見方・考え方や、小数を0.1の何こ分とみる見方・考え方も大切にしたい。

第2小單元では、既習の整数の仕組みに着目し、小数の仕組みや大小関係について学習する。小数の仕組みも、整数の仕組みと同様であり、統合的に考えられることに気づかせていきたい。

第3小單元では、小数第1位どうしの小数の加減計算やその筆算方法を考える。「小数を0.1の何こ分」とみる考えは「単位とする大きさの何こ分」とみて計算する整数の計算方法と同じであることにも気づかせたい。

第4小單元では、小数について数直線や式などを使って多様な見方や表す方法を考える。小数も整数と同じように多面的にみることができ、小数は整数と仕組みが同じであることを再度おさえたい。

(4) 研究主題に迫るための手立て

〈手立てア〉 数学的な表現を用いた学び合いのあり方の工夫

(ア) 考えを表現させるための方法や手段の指導
・1Lますの図や、数直線、位取り表、式、筆算形式の活用などを通して、自分の考えを整理・表現させる。

(イ) 考えを広げる交流のあり方
・ねらいをもって、お互いの考えを伝え合う活動を取り入れる。

〈手立てイ〉 数学的に表現することのよさを感じさせるための指導の工夫

(ア) 単元計画・単位時間計画の工夫
・4年生の小数の学習と関連させ、共通部分について捉えさせる。
・身につけさせたい用語等を位置づける。

(イ) 学びを価値づけるための振り返りの在り方
・本時の目標に合わせ、振り返りの視点を与える。
・学び合いの姿を具体的に評価し、意欲につなげる。

(3) 指導について

第1小單元では、小数を1/100の位、1/1000の位まで拡張し、その表し方について考えていく。整数は十進構造であることや、1に満たない数量を表すために1を10等分して0.1の単位をつくった学習経験が、問題解決を支えるものとなる。

第2小單元では、既習の整数の仕組みや大きさの比べ方に着目して、小数の仕組みや大小関係、10倍や1/10にした数、相対的な大きさの表し方について考えていく。その際、面積図や位取り表、数直線を用い、数の大きさや関係を実感を伴って理解できるようにさせたい。また、整数や既習の1/10の位までの小数の学習を想起させ、類推し発展させて考えたり、整数の仕組みと統合して解釈したりできるようにさせていきたい。

第3小單元では、整数の計算や十進位取り記数法に着目して、1/1000までの加法・減法の筆算の仕方を考えていく。筆算を形式的に処理するのではなく、0.01、0.001が何こあるかという見方・考え方によって整数の計算と同じように計算できることを指導者から繰り返し問いかけ、児童に発表する場を設けていきたい。

(4) 研究主題に迫るための手立て

〈手立てア〉 数学的な表現を用いた学び合いのあり方の工夫

(ア) 考えを表現させるための方法や手段の指導
・1Lますの図や、数直線、位取り表、式、筆算形式の活用などを通して、自分の考えを整理・表現させる。

(イ) 考えを広げる交流のあり方
・間接指導時のガイドによる学習を通して、お互いの考えを伝え合う活動を取り入れる。

〈手立てイ〉 数学的に表現することのよさを感じさせるための指導の工夫

(ア) 単元計画・単位時間計画の工夫
・3年生の小数の学習と関連させ、共通部分について捉えさせる。
・身につけさせたい用語等を位置づける。

(イ) 学びを価値づけるための振り返りの在り方
・本時の目標に合わせ、振り返りの視点を与える。
・学び合いの姿を具体的に評価し、意欲につなげる。

3 単元目標

(1) 小数の意味や表し方について理解し、加法及び減法の計算ができるようにする。

【知識及び技能】

(2) 数学的表現を適切に活用して小数の表し方や仕組み、計算の仕方を整数の十進構造と関連づけて考える力を養う。【思考力・判断力・表現力等】

(3) 小数の意味や表し方について振り返り、今後の学習や生活に生かそうとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元目標

(1) 小数の意味や表し方について理解し、加法及び減法の計算ができるようにする。

【知識及び技能】

(2) 数学的表現を適切に活用して小数の仕組みや計算の仕方を考える力を養う。

【思考力・判断力・表現力等】

(3) 十進位取り記数法を基に整数や小数の仕組みを考えた過程を振り返り、日常生活に生かそうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

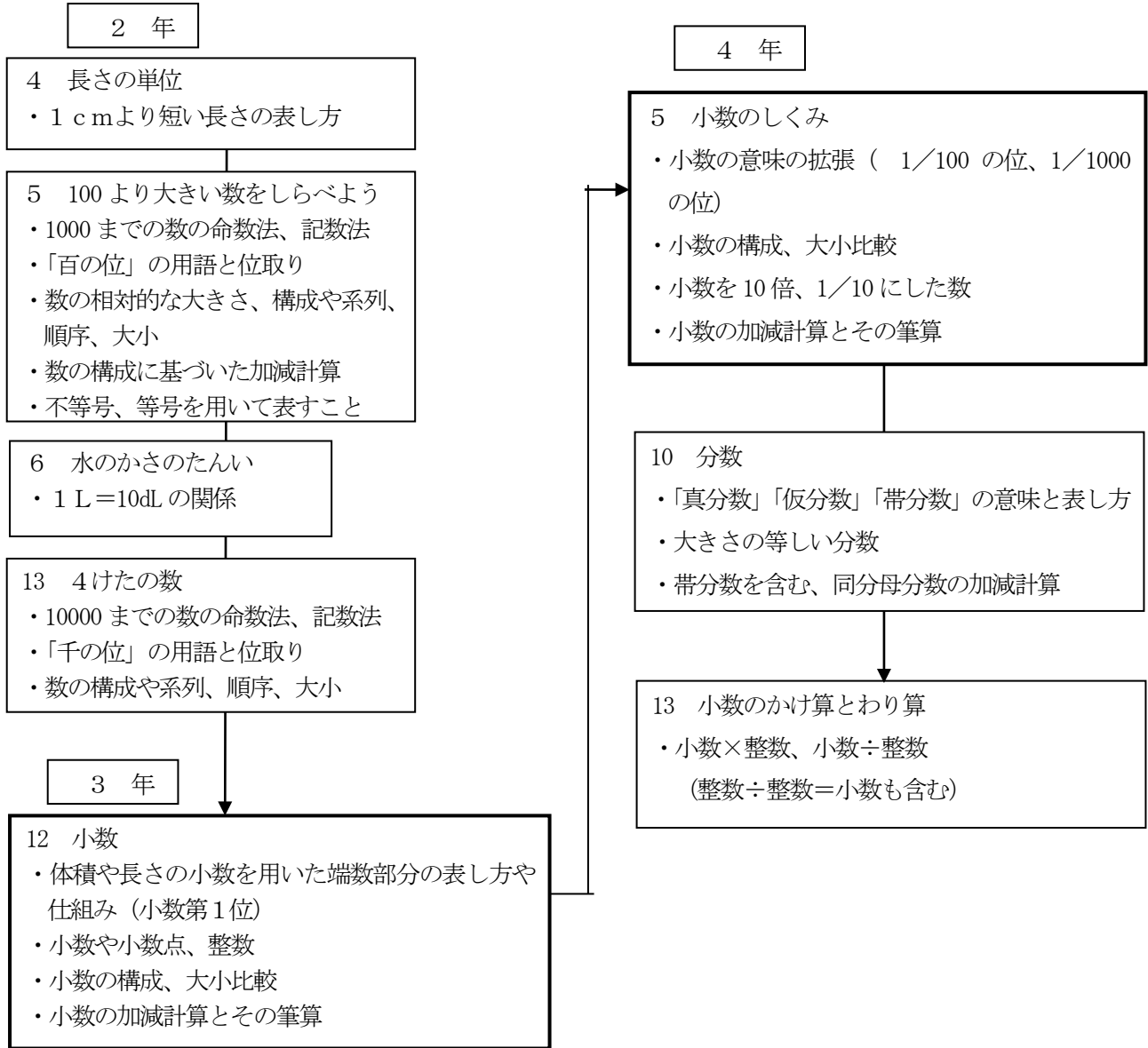
4 単元の評価規準（3年）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ①端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知っている。 ②小数の表し方及び $1/10$ の位について知っている。 ③量を測定する単位の構成が、十進構造になっていることについて理解している。 ④ $1/10$ の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知っている。 | ①小数の大きさについて、図や数直線を用いて表したり、 0.1 の幾つ分かを考えたりして、大きさを比べたり、小数の加法及び減法の計算の仕方を考えたりしている。 ②小数やその計算が日常にも使えることに気付いている。 | ①小数でも数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうか考えたことを振り返り、 0.1 の幾つ分と見ることによって整数と同じ見方ができるとに気づき、次の学習に活用しようとしている。 ②端数部分の大きさを表すことができるというよさに気づき、身の回りから、小数が用いられる場面を見付けようとしている。 |

(4年)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ① $1/10$ の位、 $1/100$ の位と範囲が拡張された小数を知り、小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知っている。 ② 1.2 を 0.1 が 12 個集まった数とみるなど、数の相対的な大きさから、小数をとらえることができる。 ③小数の加法及び減法についての理解を深めている。 ④ $1/1000$ の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。 | ①端数部分の大きさを小数で表すとき、 0.1 の単位をつくったときの考えを基に、 0.01 の単位をつくることを考えている。 ② $1/1000$ の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などと関連付けて考えている。 ③小数やその計算が日常生活にも使えることに気付いている。 | ①小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法の仕組みで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。 ②小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されているから同じように計算できるというよさに気づき、小数の計算の仕方を考えようとしている。 |

5 単元の系統



6 単元指導計画 (3年 全12時間)

◆学び合い

●用語等

| 時 | ねらい | 学習活動 | 評価規準・評価方法等 | | |
|---------------------|--|---|-------------------|-------------------|---|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| (1) 1より小さい数の表し方 4時間 | | | | | |
| 1 | [プロローグ] ・整数で表せない端数部分の大きさの表し方を、既習の数の仕組みや単位の学習に着目して考え、説明することができる。 | ①p.2の写真を提示し、身の回りにある数の並びが同じで小数点のあるものとないものの数を話題として取り上げ、話し合い活動を通して、小数の表し方や仕組みを理解するという単元の課題を設定する。(所要時間は10分程度) ●かさ ①◆水を1Lのますではかったときの1Lに満たないはしたのかさの表し方を考える。 ②1Lを10等分した1こ分のかさを「0.1L」ということを知る。 ③はしたのかさはその3こ分で0.3L、1Lと合わせて1.3Lになることを知る。 ●10等分 0.1L 1.3L | ○知① 行動観察、ノート分析 | ・思① 行動観察、ノート分析 | |

| 時 | ねらい | 学習活動 | 評価規準・評価方法等 | | |
|------------------------|--|---|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| 2 | | ①◆前時の学習を振り返りながら小数を使ってはしたの大きさを表す。 ②用語「小数」「小数点」「整数」を知る。 ● 小数 小数点 整数 | ・知② 行動観察、ノート分析 | ・思① 行動観察、ノート分析 | |
| 3 | ・長さ (cm) の端数部分の表し方を水のかさを小数で表したことを基に考え、説明することができる。 | ①◆8cm7mmのテープの長さをcm単位で表すことを考える。 ②長さや重さの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。 | ○知② 行動観察、ノート分析 | ・思① 行動観察、ノート分析 | |
| 4 | ・数直線の1目盛りの大きさに着目して、数直線上の小数を表す目盛りを読んだり、小数を数直線に表したりする方法を考え、説明することができる。 | ①数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。 ②◆小数の相対的な大きさについて考える。 ●数直線 1めもり 集めた数 | | ・思① 行動観察、ノート分析 | ○態① 行動観察、ノート分析 |
| (2) 小数のしくみ 2時間 | | | | | |
| 5 | ・用語「小数第一位」を知り、小数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 | ①◆147.2の構成について考える。 ②用語「小数第一位」を知る。 ③位取り板と数カードを使って、147.2の構成をとらえる。 ●数のしくみ あわせた数 小数第一位 | ○知③ 行動観察、ノート分析 | | |
| 6 | ・小数の大小関係について理解する。 | ①◆数直線を使って、小数の大小を考える。 ②小数の大小を比較する時には、整数の場合と同じように、位の数字に着目すればよいことをまとめる。 ●不等号 | | ○思① 行動観察、ノート分析 | |
| (3) 小数のしくみとたし算、ひき算 3時間 | | | | | |
| 7 | ・小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位どうしの小数の加法の計算方法を考え、説明することができる。 | ①場面をとらえ、立式する。 ②◆ $0.3+0.2$ の計算の仕方を、 0.1 をもとにして $3+2$ の計算に帰着して考える。 ③既習の $30+20$ と $0.3+0.2$ を統合的にとらえる。 ● $0.1L$ 何こ分 もとにする | ・知④ ノート分析 | | |
| 8 本時 | ・小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考え、説明することができる。 | ①場面をとらえ、立式する。 ②◆前時の学習を使って、 $0.5-0.2$ や $1-0.4$ の計算の仕方を考える。 ③前時と同様に、 $0.5-0.2$ の計算を、 0.1 をもとにして $5-2$ の計算に帰着して考える。 ④ 0.1 をもとにすると、小数の加減法の計算は整数の加減法の計算方法に帰着して考えられることをまとめる。 ● 0.1 何こ分 もとにする | | ・思① 行動観察、ノート分析 | |

| 時 | ねらい | 学習活動 | 評価規準・評価方法等 | | |
|--------------------|--|---|----------------|-------------------|-------------------|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| 9 | ・小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し、それらの計算をすることができる。 | ①◆2.5+1.8の筆算の仕方を考える。 ②小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方をまとめる。 ③4.3-1.8の筆算の仕方を考える。 ④1.2+2.8、4.2-3.5、5-1.4の筆算の仕方を考える。 ●位をそろえる 下の位 位ごと | ○知④ ノート分析 | ・思① 行動観察、ノート分析 | |
| (4) 小数のいろいろな見方 1時間 | | | | | |
| 10 | [今日の深い学び] ・小数の仕組みや数の構成に着目し、小数について多様な見方や表し方を考え、表現することができる。 | ①2.8を数直線に表し、いろいろな見方や表し方を考える。 ②◆他者の考えを読み取り、図や式や数直線で表す。 ③2.8は、数の構成や相対的な大きさを基にするといろいろな表し方ができることをまとめる。 ●見方 | | ○思① 行動観察、ノート分析 | |
| まとめ 2時間 | | | | | |
| 11 | ・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 | [いかしてみよう] ①◆小数を用いて表された身の回りの道のりや距離を読み取り、問題解決に取り組む。 | | ○思② 行動観察、ノート分析 | ○態② 行動観察、ノート分析 |
| 12 | ・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 | ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 | ○知②③④ ノート分析 | ・思① 行動観察、ノート分析 | |

(4年 全11時間)

◆学び合い

●用語等

| 時 | ねらい | 学習活動 | 評価規準・評価方法等 | | |
|----------------|--|--|---------------------|---|---------------------|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| (1) 小数の表し方 2時間 | | | | | |
| 1 | [プロローグ] ・1/10の単位に満たない大きさの表し方を理解し、1/100の位までの小数の書き方、読み方を理解する。 | ①p.74の写真を提示し、身の回りから小数表示のものを話題として取り上げる活動を通して、数には小数第一位未満のものもあることに気づくとともに、小数の仕組みや表し方について理解を深めるという単元の課題を設定する。 ●小数 かさ 1/10の位 ①◆ポットに入る水のかさを調べ、0.1Lより小さいはしたの表し方を考える。 ②1/100の位までの小数の書き方と読み方をまとめる。 ●0.1L めもり 0.01L 10等分 数直線 | ・知① (行動観察、ノート分析) | | ○態① (行動観察、ノート分析) |

| | | | | | |
|--------------------|---|---|---------------------|---------------------|---------------------|
| 2 | ・1/1000 の位までの小数の書き方、読み方を知り、小数の表し方について理解する。 | ①◆新幹線の線路の幅の1.435mという数について、それぞれの位の数字が表す大きさを調べる。 ②0.001mの書き方と読み方を知る。 ③1km325mを km単位で表し、単名数の表し方を知る。 ●0.001m | ○知① (行動観察、ノート分析) | | |
| (2) 小数のしくみ 4時間 | | | | | |
| 3 | ・既習の整数の仕組みに着目して、1と0.1、0.01、0.001の関係を考え、説明することができる。 | ①1、10、100、1000の関係を確認する。 ②◆1、0.1、0.01、0.001の関係を面積図を用いて調べる。 ③4.384の数の構成を調べる。 ④4.384の位取りを調べる。 ⑤「1/100の位(小数第二位)」「1/1000の位(小数第三位)」の意味を知る。 ●何分の一 何倍 位取り 1/100の位 1/1000の位 小数第二位 小数第三位 小数点 | | ・思① (行動観察、ノート分析) | |
| 4 | ・十進位取り記数法を用いて、小数の大小関係について理解する。 | ①◆位取りの表を用いて小数の大小を比べる。 ②数直線の1目盛りの大きさに着目して、小数を数直線に表す。 ③小数の大小関係を不等号に表す。 ●小数のしくみ 整数 | | ○思① (行動観察、ノート分析) | ○態① (行動観察、ノート分析) |
| 5 | ・位の変わり方に着目して、小数を10倍した数や1/10にした数について考え、説明することができる。 | ①◆0.74を10倍した数や1/10にした数を、位取りの表を用いて数の並び方を比べる。 ②小数を10倍した数や1/10にした数についてまとめる。 ●けた 10倍 100倍 1/10 1/100 | ・知② (行動観察、ノート分析) | ・思① (行動観察、ノート分析) | |
| 6 | ・面積図を用いて、0.01の大きさに着目して、小数の相対的な大きさについて考え、説明することができる。 | ①◆2.45は0.01の何こ分か、面積図を見て考える。 ②0.01を基に、小数の数の大きさについて考える。 ●集めた数 | ・知② (行動観察、ノート分析) | ・思① (行動観察、ノート分析) | |
| (3) 小数のたし算とひき算 5時間 | | | | | |
| 7 | ・1/100の位、1/1000の位の小数の加法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。 | ①◆1.75+2.64の計算の仕方を考える。 ②小数の加法の筆算の場合も整数の加法の筆算のように位を揃えて筆算すればよいことをまとめる。 ●位ごとに 位をそろえる もとにする | ・知③ (ノート分析) | | |
| 8 本 時 | | ①和の0.800は0.8であることを確かめる。 ②◆小数の桁数が揃っていない場合の筆算の仕方を考える。 ●位ごとに 位をそろえる もとにする | | ・思② (行動観察、ノート分析) | |
| 9 | ・1/100の位、1/1000の位の小数の減法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。 | ①◆3.64-2.76の計算の仕方を考える。 ②小数の減法の筆算の場合も整数の減法の筆算のように位を揃えて筆算すればよいことをまとめる。 | ○知③④ (ノート分析) | ○思② (行動観察、ノート分析) | |
| 10 | | ①◆小数の桁数が揃っていない場合の筆算の仕方を考える。 ②「ますりんつうしん」を読み、小数の歴史について関心をもつ。 | | | |

| | | | | | |
|---------|--|--|------------------|----------------------|----------------------|
| 11 | ・小数の見方について、既習の数直線や多様な数の表し方を基に考え、説明することができる。 | ①3.45を数直線上に表す。 ②◆整数と小数の和でみたり、0.01の何こ分ととらえたりするなど、3.45のいろいろな表し方を考える。 ●見方 あわせた数 | | ○思① (行動観察、ノート分析) | |
| まとめ 2時間 | | | | | |
| 12 | ・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上p.89 | 【いかしてみよう】 ①小数や長さの単位変換を活用し、問題に取り組む。 | | ○思③ (行動観察、ノート分析) | ○態①② (行動観察、ノート分析) |
| 13 | ・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 | ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 | ○知②③④ (ノート分析) | ○思①② (行動観察、ノート分析) | |

7 本時の指導 (3年…8/12時間 4年…8/13時間)

(1) 目標

【3年】小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考え、説明することができる。

【4年】1/100の位、1/1000の位の小数の加法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。

(2) 本時における研究主題に迫る手立て

〈手立てア〉 数学的な表現を用いた学び合いのあり方の工夫

- ・3年生は、1Lますの図や式、言葉等を活用しながら、4年生は、筆算や式、言葉等を用いた学び合いを取り入れる。
- ・3年生は、間接指導時の「考える」「深める」段階で、4年生は、間接指導時の「考える」段階で、ペアやグループ、全体での学び合いを取り入れる。

〈手立てイ〉 表現することのよさを感じさせるための指導の工夫

- ・共通導入、共通終末の場面で、それぞれの学年の学習内容についての共通点や相違点について考える場を設ける。

(3) 評価規準 (評価方法)

| 3年 | 4年 |
|---|---|
| [思考・判断・表現] 小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考え、説明している。 (行動観察・ノート分析) | [思考・判断・表現] 1/1000の位までの小数の加法の筆算の仕方を考え、その計算を説明している。(行動観察・ノート分析) |

| 3年生 | | 4年生 | | |
|--|--|--|---|---|
| 指導上の留意点 | 学習活動 | 段階・形態 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
| <p>・問題場面を示し、問題を捉えさせる。</p> <p>ジュースが、0.5Lあります。そのうち、0.2L飲みました。 ジュースは何Lのこっていますか。</p> <p>・問題文とさし絵を示し、本時はひき算について学習することを捉えさせる。</p> <p>さし絵や「飲んだ」「のこり」という言葉を手がかりにして、立式する。 ・0.5 - 0.2</p> <p>2 課題を把握する。</p> <p>㉔ 小数のひき算のしかたをせつめいしよう。</p> | <p>1 問題を捉え、学習課題をつかむ。</p> | <p>一斉 一斉 5分 5分</p> <p>つかむ つかむ</p> <p>見通す</p> | <p>1 問題を捉え、学習課題をつかむ。</p> <p>次の筆算のしかたを考えましょう。 0.574 + 0.226</p> <p>・式を見て、前時との違いを把握する。</p> <p>2 課題を把握する。</p> <p>㉕ 1/1000の位までの小数のたし算の筆算のしかたを説明しよう。</p> <p>3 課題解決の見通しをもつ。</p> | <p>・前時に扱った式を示し、本時の課題につなげる。</p> <p>・前時の学習内容を想起させ、見通しをもたせる。</p> |
| <p>・前時の学習内容を想起させ、見通しをもたせる。</p> <p>・小数のたし算と同様な考え方ができそうであることを確認する。</p> <p>★ 1Lますの図を準備しておく。</p> <p>・1めもりの大きさが0.1Lであることをおさえる。</p> <p>★ 1Lますの図と言葉、式などを関連させて表すようにさせる。</p> <p>【評価】[思判表] 小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位の減法計算の仕方を考え、説明している。 (行動観察・ノート分析)</p> <p>1 - 0.4の計算のしかたをせつ明しよう。</p> <p>★ 言葉、式などを関連させて表すようにさせる。</p> <p>【評価】[思判表] 小数の表し方と仕組みに着目し、1から小数をひく減法計算の仕方を考え、説明している。 (行動観察・ノート分析)</p> | <p>3 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>・0.1の何こ分 ・0.1をもとにする</p> <p>4 課題を解決する。</p> <p>・0.5は0.1の5こ分、0.2は0.1の2こ分。ひくと0.1の3こ分で、0.3になる。 ・0.1をもとにすると、 5 - 2 = 3。0.1の3こ分で0.3になる。</p> <p>●0.1 何こ分 もとにする</p> <p>◆ペアで計算のしかたについて説明し合う。</p> <p>・類似問題に取り組む。</p> | <p>直接 間接 20分 20分</p> <p>見通す 考える</p> <p>考える</p> <p>まとめる</p> | <p>4 課題を解決する。</p> <p>・0.001をもとにする</p> <p>●もとにする</p> <p>◆全体で交流し、学び合う。</p> | <p>★発表用のホワイトボードを準備しておき、自分の考えを書かせる。</p> <p>・0.001をもとにする考えを説明させる。</p> <p>★筆算と言葉、式などを関連させて表すようにさせる。</p> <p>【評価】[思判表] 1/1000の位の小数の加法の筆算の仕方を考え、その計算を説明している。 (行動観察・ノート分析)</p> |
| | <p>5 まとめる。</p> <p>㉖ 0.1をもとにして整数の計算で考えることができる。</p> | | | |

| | | | | | |
|--|---|---------------------------|------------------------------------|---|---|
| <p>6 ◆適用問題を解く。</p> <p>㊦ 1. $4 - 0.6$ の計算のしかたをせつ明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとにして、ペアで説明させる。 教科書 P11 の練習問題に取り組みさせる。 | <p>1. $4 - 0.6$ の計算のしかたについて説明し合う。</p> <p>練習問題に取り組む。</p> | <p>間接 15分 深める</p> | <p>直接 15分 まとめる 深める</p> | <p>5 適用問題を解く。</p> <p>㊦ 3. $6 + 0.835$ の筆算のしかたを説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> $3.6 + 0.835$ の筆算のしかたについて説明し合う。 ●位をそろえる 位ごとに <p>6 まとめる。</p> <p>㊧ 0.001 をもとにして考え、位をそろえて位ごとに計算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとにして、ペアで説明させる。 教科書 P85 の練習問題に取り組みさせる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、学んだことを交流する。 板書を見ながら、両学年の共通点・相違点について考えさせ、内容のつながりについて捉えさせる。 | <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、4年生と交流する。 <p>8 次時の学習を確認する。</p> | <p>一斉 5分 深める</p> | <p>一斉 5分 深める</p> | <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、3年生と交流する。 <p>8 次時の学習を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、学んだことを交流する。 板書を見ながら、両学年の共通点・相違点について考えさせ、内容のつながりについて捉えさせる。 |

8 板書計画
〔3年生〕

| | | |
|--|---|--|
| <p>㊤ ジュースが、0.5 L あります。そのうち、0.2 L 飲みました。 ジュースは何 L のこっていますか。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>しき $0.5 - 0.2 = 0.3$ 答え 0.3 L</p> | <p>㊦ 小数のひき算のしかたを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.1 の何こ分 0.1 をもとにする <p>(教科書の図)</p> <p>0.1 をもとにすると、$5 - 2 = 3$。 0.1 の 3 こ分で 0.3 になる。</p> | <p>$1 - 0.4$ の計算のしかたをせつめいしよう。</p> <p>㊧ 0.1 をもとにして整数の計算で考えることができる。</p> <p>㊦ $1.4 - 0.6$ の計算のしかたをせつめいしよう。</p> |
|--|---|--|

〔4年生〕

| | | | | | | | | |
|--|---|-----------|--|--|--|--|--|---|
| <p>㊧ 次の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p>$0.574 + 0.226$</p> <p>0.574 $+ 0.226$ 0.800</p> <p>・ 0.001 をもとにする</p> | <p>㊧ $1/1000$ の位までの小数のたし算の筆算のしかたを考えよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">児童の 説明</td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 0.001 をもとにして考えると、 0.574 は 0.001 が 574 こ 0.226 は 0.001 が 226 こ あわせて 0.001 が 800 こだから 0.800</p> | 児童の 説明 | | | | | | <p>㊦ $3.6 + 0.835$ の筆算のしかたを説明しよう。</p> <p>㊧ 0.001 をもとにして考え、位をそろえて位ごとに計算する。</p> |
| 児童の 説明 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

算数 3・4年

大船渡市立吉浜小学校 令和5年9月21日(木)

第3学年 わり算や分数を考えよう
(東京書籍「新しい算数3上」P114)

第4学年 倍の見方
(東京書籍「新しい算数4上」P114)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



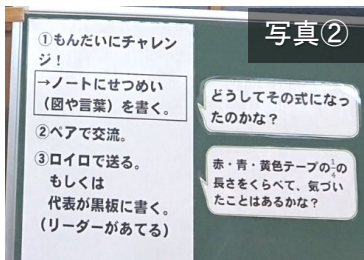
○「同時導入・同時終末」による学びの深まり

令和5年9月に行われた校内研究会での実践です。本時の学習内容で両学年に共通する見方・考え方となる「もとにする数に着目すること」を手掛かりに、児童が各学年の学びのつながりを意識できるよう、導入、まとめ、振り返りを合同で行いました。4年生は、導入時において、3年生が問題を把握する場面から前年度の学習を想起し、自分たちの学習問題を解決する際のヒントにする様子が見られました。また、3年生は、合同で行ったまとめから4年生の学習内容との共通点に気づき、学びを深めることができました。さらに、振り返りの場面では、3年生と4年生がお互いの振り返りを交流する場面を設定しました。学びの連続性への意識の高まりだけでなく、お互いの学習の取り組み方から学ぼうとする意欲が感じられました。【写真①】



類似した単元などの指導では、両学年の学習内容を関連させて指導することにより理解を深められる場合があります。その際には、お互いの学習内容の共通性や関連性、連続性に、児童が自ら気付くことができるような場面や発問を設定することが大切です。また、このような場面を意図的に取り入れていくことで、学級の一体感が生まれ、学習意欲が高まることも期待できます。なお、内容を意図的に関連させて指導することは、どの単元でもできるわけではありません。身に付けさせたい資質・能力を明確にしながら、内容の関連性や系統性について、指導者が十分に整理する必要があります。

○間接指導において、児童が主体的に学習を進めることができる工夫



間接指導の際は、自力解決から交流までの学習の流れをしっかりと示すことで、学習リーダーを中心に、児童が自ら学習を進めることができました。【写真②】また、前時までの学習内容をまとめた掲示物や実際の長さのテープ図などを掲示しており、



それらの中から児童が自分で必要な手掛かりを見つけながら、課題の解決に向かう様子が見られました。【写真③】



間接指導の際、児童は教師の直接的な支援なしで学習を進めなくてはなりません。児童の学びが止まってしまわないように、児童のつまずきを予想しながら支援の仕方を工夫したり、自分たちで学習を進めるための学び方を確実に身に付けさせたりすることが重要です。

第3, 4学年 算数科複式指導案

日 時 令和5年9月21日(木) 5校時
 児 童 3年7名 4年7名 計14名
 授業者 高橋 さや香

1 単元名

3年 わり算や分数を考えよう (新しい算数 東京書籍3年上 P114~117)
 4年 倍の見方 (新しい算数 東京書籍4年上 P114~119)

2 単元について

| (1) 単元の目標と評価規準 | |
|----------------|--|
| 3 年 | <p>【目標】 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養い、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について理解し、説明している。 ・分数で表される場面を適切にとらえ、除法を用いて答えを求めることができる。 ○ 思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、既習の計算の仕方や図などを用いて、数の構成に着目して考え、説明している。 ・等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。 ○ 主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、具体物や図、式を関連づけたり、既習の計算の仕方などをもとに考えたりしながら、その過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 ・分数と除数の関係やもとの数と分数の関係を考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 |
| 4 年 | <p>【目標】 ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることについて理解し、簡単な場合について割合を求めることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して二つの数量どうしの関係の比べ方を考える力を養い、割合を用いて比べた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合についての割合を活用して、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べることができる。 ○ 思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象における数量の關係に着目し、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係について割合を用いて考え、説明している。 ○ 主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合について、割合を用いて比べたことを振り返り、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。 |

| | |
|--------------|---|
| (2) 児童の実態 | |
| 3年 | (省略) |
| 4年 | (省略) |
| (3) 目指す資質・能力 | |
| 3・4年 | <p>① 自分の考えをもち、見通しをもって学習に取り組む活動の工夫 既習事項を振り返るため図や式などを掲示し、自分の考えがもてる手立てとする。本時では、3年生は色テープ、4年生は包帯を実際に提示し、具体物を通してイメージをしっかりとらせ、問題解決の一助になるよう工夫する。</p> <p>② 自分の考えを深めたり広げたりするための工夫 自力解決できるように十分に解決方法を見通させた上で、間接指導へ移行する。ペア学習では、話し合う視点を明確にして互いの考えを交流させる。本時では、単純な答え合わせにならないよう、自分の考えをテープ図や言葉で伝えるようにさせる。また、聞く側は、うなずいたり質問したりするなど、反応しながら聞くようにさせたい。</p> <p>③ 学びを確かめる振り返りのあり方(数学の良さの気付きや生活や学習に生かす) 2つの学年で同時に導入することにより、両学年とも学習の見通しを十分にもたせる。それぞれの課題に対し、どのような学習を行い何が分かったのか、同時に振り返りをし、互いに交流することで、学級の一体感をもたせ、次時への意欲につなげたい。</p> |

| | |
|-----------------|--------------------------------------|
| (4) 本単元の学習関連と発展 | |
| 3年 | (新しい算数 3年上 教師用指導書 研究編 P258) (図省略) |
| 4年 | (新しい算数 4年上 教師用指導書 研究編 P236) (図省略) |

3 単元の指導計画(全4時間 本時)と評価の観点

(1) 3年

| 時 | 目標 | 学習活動 | 評価の観点 |
|------------------|--|---|---|
| (1) 大きい数のわり算 2時間 | | | |
| 1 | 60÷3などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 | ①60÷3の計算の仕方を、60を10の6こ分ととらえて既習の計算を使って考える。 ②適用問題に取り組む。 | [知技]簡単な場合の何十÷1位数の計算の仕方について理解している。 [思判表]60÷3などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。 |

| 時 | 目標 | 学習活動 | 評価の観点 |
|-----------------|---|--|--|
| 2 | 69÷3 などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 | ①69÷3 の計算の仕方を、69 を 60 と 9 に分けて考える。 ②適用問題に取り組む。 | [知技]簡単な場合の 2 位数÷1 位数の計算の仕方について理解している。 [思判表]69÷3 などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。 [態度]図や式を関連づけ、既習を基に考えたことを振り返り、学習に生かそうとしている。 |
| (2) 分数とわり算 2 時間 | | | |
| 3 | 分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。 | ①80cm の 1/4 の長さの求め方を考える。 ②分数で表された数を除法を用いて表すことができることを知る。 | [知技]分数の「等分する」という考えを用いて、分数で表された数を計算して求めることができる。 [思判表]等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。 |
| 4 本 時 | もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。 | ①84cm や 88cm の 1/4 の長さを求める。 ②もとの長さの 1/4 の長さが異なる理由を考える。 ③もとの大きさと分数の関係をまとめる。 | [思判表]もとの大きさに着目して、1/4 の長さが異なる理由を考え、説明している。 [態度]分数と除法の関係を用いて計算することのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。 |

(2) 4 年

| 時 | 目標 | 学習活動 | 評価の観点 |
|---------------|----------------------------|--|--|
| (1) 倍の見方 4 時間 | | | |
| 1 | 倍を求めるには除法を用いればよいことを理解する。 | ①15m が 3m の何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 ②「3m の□倍が 15m」の関係をおさえて、 $3 \times \square = 15$ の式で確認する。 ③基準量の何倍かを求めるには除法を用いればよいことをまとめる。 | [知技]除法を用いて何倍かを求めることができる。 [思判表]割合について二つの数量の関係に着目し、テープ図や数直線の図を用いて倍の意味をとらえ、説明している。 |
| 2 | 比較量を求めるには乗法を用いればよいことを理解する。 | ①180 cm の 3 倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 ②基準量の何倍かにあたる量を求めるには乗法を用いることをおさえ、数量の関係をまとめる。 | [知技]乗法を用いて比較量を求めることができる。 [思判表]テープ図や数直線の図を用いて数量の関係に着目してその意味をとらえ、説明している。 |

| 時 | 目標 | 学習活動 | 評価の観点 |
|-------------|---|--|--|
| 3 | 基準量を求めるには、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。 | ①数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の式に表す。 ②□にあてはまる数を求めるには、除法を用いるか、数をあてはめて調べるかをすればよいことをおさえる。 | [知技]数量の関係を□を用いて乗法の式に表し、基準量を求めることができる。 [思判表]二つの数量の関係に着目して、テープ図や数直線の図を用いて基準量の求め方を考え、説明している。 |
| 4 本 時 | 差による比較のほかに、倍を使っても比較できることを理解する。 | ①どちらの包帯がよく伸びるのかを考える。 ② $60 \div 30$, $45 \div 15$ の計算をして、ある数量と数量の関係と別の数量と数量の関係を倍を使って比べる。 | [思判表]差で比べられない場合、割合に着目して比較する方法を考え、説明している。 [態度]割合で比べる方法を生活に生かそうとしている。 |

4 本時の指導

(1) 目標

《3学年》もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。

《4学年》差による比較のほかに、倍を使っても比較できることを理解する。

(2) 本時の展開

| 第3学年 | | 直 | 直 | 第4学年 | |
|--|--|--------------------|--------------------|---|----------------------|
| ☆支援 ◎評価 | ○学習内容・予想反応 | 間 | 間 | ○学習内容・予想反応 | ☆支援 ◎評価 |
| | 1 問題を把握する。 もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さを、それぞれもともましよう。 | 共通 導入 8分 | 共通 導入 8分 | 1 問題を把握する。 包帯 A と包帯 B があります。東小学校では、よくのびる包帯を多く買いたいと考えています。包帯 A と包帯 B では、どちらがよくのびるといえるでしょうか。 | |
| ☆前時の図と式を掲示しておく。(80 cmの赤いテープ) ☆84 cmの青色のテープと88 cmの黄色のテープを提示する。 | 2 課題を設定する。 もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さをくらべよう。 | | | 2 課題を設定する。 どちらがよくのびるといえるか、くらべ方を考えよう。 | ☆包帯の提示し、包帯の伸び方を確認する。 |

| | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| <p>☆自力解決の流れを提示し、自分達で学ぶ流れを確認する。</p> <p>☆前時の学習を基に、説明しようとする姿勢を価値づける。</p> <p>☆テープ図も使って説明させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆話し合いの視点</p> <p>①立式の理由</p> <p>②2つの式・答えを比べて気づいたこと</p> </div> | <p>3 自力解決をし、説明し合う。</p> <p>○既習を基に、青色と黄色テープの、$\frac{1}{4}$の長さをそれぞれ求める。</p> <p>○立式の理由と答えの求め方について、ペアで考えを発表し合う。</p> <p><青色></p> <ul style="list-style-type: none"> ・84 cmの$\frac{1}{4}$の長さは、84 cmを4等分した1こ分の長さだから、$84 \div 4$のわり算の式で求められる。 ・$84 \div 4 = 21$ だから84 cmの$\frac{1}{4}$の長さは21 cmになる。 <p><黄色></p> <ul style="list-style-type: none"> ・88 cmの$\frac{1}{4}$の長さは、88 cmを4等分した1こ分の長さだから、$88 \div 4$のわり算の式で求められる。 ・$88 \div 4 = 22$ だから88 cmの$\frac{1}{4}$の長さは22 cmになる。 <p>・どちらも$\frac{1}{4}$にしたのに、長さが違うね。</p> | <p>間 接 指 導</p> <p>1 5 分</p> | <p>直 接 指 導</p> <p>1 5 分</p> | <p>3 見通しをもつ。</p> <p>○もとの長さが異なるため、差では比べられないことに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$60 - 30 = 30$ $45 - 15 = 30$ のびた長さは同じだけど・・・ <p>4 集団解決をする。</p> <p>○A、Bの包帯について、伸ばした後の長さが伸ばす前の何倍になっているか考えたことを発表し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A $60 \div 30$ 2倍 B $45 \div 15$ 3倍 <p>5 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>もとにする大きさがちがうときには、倍を使ってくらべることがある。</p> </div> <p>○用語「割合」を知る。</p> | <p>☆A、Bそれぞれのテープ図を提示し、倍の考えを引き出しやすくする。</p> <p>☆どちらがよく伸びるといえるかを調べるには、何倍に伸びたかに着目し、差による比較ではなく、倍を使って比較するとよいことに気づかせる。</p> <p>☆このような比べ方をして出てきた2や3を表した数を「割合」ということを教える。</p> |
| <p>☆テープ図や式から相違点を見つけ、基の長さに着目するよう促す。</p> <p>◎【思・判・表】</p> <p>もとの大きさに着目して、$\frac{1}{4}$の長さが異なる理由を考え、説明している。</p> | <p>4 集団解決をする。</p> <p>○全体で考えを発表し合い、確認する。</p> <p>○もとの長さの$\frac{1}{4}$の長さが異なる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも、もとの長さの$\frac{1}{4}$の長さだけど、もとの長さが違うので、$\frac{1}{4}$の長さもちがってくる。 <p>5 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>もとの長さがちがうから、その$\frac{1}{4}$の長さもちがう。</p> </div> <p>○練習問題②と③に取り組む。</p> | <p>直 接 指 導</p> <p>1 5 分</p> | <p>間 接 指 導</p> <p>1 5 分</p> | <p>6 自力解決をし、説明し合う。</p> <p>○練習問題④に取り組む。</p> <p>○テープ図と数直線の図を活用し、それを基にペアで説明し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段の上がり方を比べるためには、倍を使うといので、レタスとキャベツがそれぞれ何倍になっているか調べる。 ・レタス $300 \div 150 = 2$ 2倍 キャベツ $200 \div 50 = 4$ 4倍 なので、値段の上がり方が大きいのはキャベツ。 | <p>☆自力解決の流れを提示し、自分達で学ぶ流れを確認する。</p> <p>◎【思・判・表】</p> <p>差では比べられない場合、割合に着目して比較する方法を考え、説明している。</p> <p>☆テープ図と数直線の図を作図し、それを手がかりに、自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>☆自分の考えをロイロノートに送らせ、全体確認の時に活用する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆話し合いの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式の理由 </div> |

| | | | | | |
|---|--|---------------------|---------------------|--|---|
| <p>☆振り返りの視点 4年生に学習して分かったことを伝える。</p> | <p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>○振り返りの視点をもたせノートに書かせる。</p> <p>○本時の学習について4年生とペアで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リボンの長さが違うと$\frac{1}{4}$の長さも変わることが分かった。 <p>○全体の中で交流して気づいたことを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは4等分でわり算を使ったけれど、4年生は倍の計算でわり算を使っている、同じわり算でも式の意味は違うんだなと思いました。 <p>○次の学習の見通しをもつ。</p> | <p>共通まとめ 7分</p> | <p>共通まとめ 7分</p> | <p>7 学習の振り返りをする。</p> <p>○振り返りの視点をもたせノートに書かせる。</p> <p>○本時の学習について3年生とペアで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包帯の長さが違っても、何倍か分かると伸び具合を比べることができる。 <p>○全体の中で交流して気づいたことを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちも、もとの長さを倍にしたけれど、3年生ももとの長さを4等分にしていて、もとの長さを使うところが、似ているなと思いました。 <p>○次の学習の見通しをもつ。</p> | <p>☆振り返りの視点 3年生に学習して分かったことを伝える。</p> |
|---|--|---------------------|---------------------|--|---|

算数 3・4年

岩泉町立小本小学校 令和5年11月10日(金)

第3学年 数の表し方やしくみを調べよう
(東京書籍「新しい算数3下」P13-15)

第4学年 小数のしくみを調べよう
(東京書籍「新しい算数4上」P88)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○「共通導入・共通終末」による「共通のねらい」の場の設定

本実践では、学習内容や学び方の系統性を明らかにして、共通部分に着目することによって、共通導入を可能にしています。

本時では、整数の合成・分解について、2学年一緒に振り返らせることで、小数と整数の仕組みが同じなのかという「共通のねらい」を明確にもたせることができました。【写真①】

また、終末場面では、下学年の児童が、学習についての発展的な見通しについて語ったり、上学年の児童が、既習事項と現在学習している内容との関連について語ったりするなど、上学年と下学年の児童が互いに認め合う姿が見られました。【写真②】

写真①



写真②



共通導入・共通終末のよさは、学級全体が共に学びに向かっているという、一体感を感じることができることです。学習内容を関連付けた指導を行う際は、「どんな力を身に付けさせるために」「何を」「どんな方法で」関連付けるかが大切です。まずは、教師自身が学習内容や学び方の系統性、連続性、関連性、発展性を明確にする必要があります。

○児童一人ひとりの特性や学習状況に応じた指導の工夫

児童一人ひとりの特性や学習状況に応じた指導や、児童がさらに考えを深めることができるような支援をすることで、児童がより意欲的に学ぶことができるようにしています。

3年生は、間接指導の場面で、「どうしてその答えになったか」の根拠を説明し合う場を設定したことで、小数の仕組みや数の構成に着目し、数直線を用いて考える児童や、友達の考えを式で表す児童、小数の多様な見方や表し方について考え、言葉で説明する児童など主体的に「学び方」を交流することができました。

4年生は、既習の「整数や小数の桁が小さいとき」と比較することにより、桁が大きくなっても同じように数を合成・分解できることに気付くことができました。指導者は、児童が、自分の考えを言葉や図、式などを用いて表現する力を育むことを意識しています。【写真③】

写真③



お互いの「解決方法」に共通性を見出し、その解決方法が「何を」「どのように」思考する時に使えるものなのかを一緒に整理する場面を設定することによって、単学年で整理するよりも一層「解決方法」を吟味したり、習得したりすることが期待できます。

なお、少人数であっても、一人ひとりの学習の状況を理解するのは決して簡単なことではありません。様々な角度から児童をよく観察し、よく理解することが大切です。また、児童が少し困っている姿を見かけたら、それが児童の成長の好機と捉え、しっかり見守ることも時には必要かもしれません。「じっと待つ」心のゆとりをもちましょう。

岩泉町立小本小学校 第3・4学年 算数科学習指導略案

学 級 3年生6名 4年生7名

場 所 3・4年生教室

指導者 小嶋 友皓

1 単元名 3年生 小数

4年生 小数のしくみ

教材名 3年生 数の表し方やしくみを調べよう (教科書名) 新しい算数3下 東京書籍

4年生 小数のしくみを調べよう (教科書名) 新しい算数4上 東京書籍

2 本時の指導について

(1) 目標

| 3年生 | 4年生 |
|--|--|
| 小数の仕組みや数の構成に着目し、小数について多様な見方や表し方を考え、表現することができる。 | 小数の見方について、既習の数直線や多様な数の表し方を基に考え、説明することができる。 |

(2) 具体的評価規準

| 3年生【評価の観点】 おおむね満足できるB | 4年生【評価の観点】 おおむね満足できるB |
|---|--|
| 【思・判・表】小数の仕組みや数の構成に着目し、数直線や式を用いて、小数の多様な見方や表し方について考え、説明している。 | 【知・技】3.45を多様な見方を用いて表したり、とらえたりすることができる。 |

(3) 展開

| 3年生 | | | 4年生 | | |
|--|-----------------------|------------|---------------------------|----------------------------|--|
| ・指導上の留意点 ◎評価 | 学習活動 | 過程 | 学習活動 | ・指導上の留意点 ◎評価 | |
| ・整数の合成・分解について振り返り、小数の合成・分解のイメージをもたせる。 ・共通導入を行い、どんな学習をしているのか確認し合う。 | 1 既習事項の確認 | 導 導 入 入 | 1 既習事項の確認 | ・桁が増えていることを確認し、系統性に気付かせたい。 | |
| | 2 問題の把握 学習課題を確認する。 | 7 7 分 分 | 2 問題の把握 学習課題を確認する。 | | |
| 「280は、どんな数といえるか。」という既習を確認し、小数でも同じような見方ができるのか見通しを立てる。 | | | 2.8と3.45は、それぞれどんな数といえますか。 | | |

| | | | | | |
|---|--|-----------------------|-----------------------|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 問題や課題は、紙板書や小黒板を使って掲示する。 | 3 課題を把握する。 | | | 3 課題を把握する。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題や課題は、紙板書や小黒板を使って掲示する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 小数も整数と同じような見方ができるか考えよう。 </div> | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーを中心に、自分たちで学習を進めていけるように、学習計画を示しておく。 | 4 課題解決する。 ・2. 8は、どんな数か言葉や式で表す。 | 展 開 5 分 | 展 開 5 分 | 4 課題解決する。 ・3. 45は、どんな数か言葉や式で表す。 | <ul style="list-style-type: none"> 自力解決が困難な場合は、整数の場合を想起させ、同じように合成・分解できることに気付かせたい。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ☆小規模校の強み <u>少人数であることを生かし、個に応じた課題を与えたり、個別に指導したりする。</u> </div> | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○小数の仕組みや数の構成に着目し、数直線や式を用いて、小数の多様な見方や表し方について考え、説明している。(観察・ノート) | 5 ペアで考えを説明する。 ・どうしてその答えになったのか説明し合う。 | 1 5 分 | 1 5 分 | 5 ペアで考えを説明する。 ・どうしてその答えになったのか説明し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 整数や小数の桁が小さいときと比較し、桁が大きくなっても同じように数を合成・分解できることに気付かせたい。 |
| | 7 まとめる。 | 終 末 1 8 分 | 終 末 1 8 分 | 7 まとめる。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 小数も整数と同じように、色々な見方ができる。 </div> | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 共通まとめの際に、整数でも小数でも同じように色々な見方ができることを確認し、その系統性に気付かせたい。 | <u>色々な見方とは</u> ① 2 と 0.8 を合わせた数 ② 3 より 0.2 小さい数 ③ 2 と 0.1 を 8 こ合わせた数 ④ 0.1 を 28 こ合わせた数 | | | <u>色々な見方とは</u> ① 3 と 0.45 を合わせた数 ② 3.5 より 0.05 小さい数 ③ 1 を 3 こと 0.1 を 4 こと 0.01 を 5 こ合わせた数 ④ 0.01 を 345 こ合わせた数 | <ul style="list-style-type: none"> 共通まとめの際に、小数に桁が増えても同じように色々な見方ができることを確認し、その系統性に気付かせたい。 |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題に取り組む際は、各学年を机間巡視し、つまずきが多い問題は、全体で確認する。 ・振り返りを異学年で交流することで来年度の学習の見通しをもたせたい。 | <p>8 練習問題に取り組む。 ○△1の問題に取り組む。</p> <p>9 学習を振り返る。</p> | | <p>8 練習問題に取り組む。 ○△1の問題に取り組む。</p> <p>9 学習を振り返る。</p> | <p>○数学的な表現を用いて、小数を多様にとらえたりしたことを生かし、問題を解いている。 (ノート・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを異学年で交流することで学習の系統性に気付かせる。 |
|--|--|--|--|--|

算数 1・2年

一戸町立鳥海小学校 令和5年10月25日(水)

第1学年 たしざん
(東京書籍「あたらしいさんすう1
② P81)

第2学年 新しい計算を考えよう
(東京書籍「新しい算数2下」P10)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○間接指導時の課題意識を引き出す手立て

本時は、1年生が直接指導から、2年生が間接指導から始まりました。

1年生は、直接指導の中で、卵パックの写真から問題場面を捉え、加数と被加数の関係について前時との違いを考えました。教師の発問により、問題場面と式を対応させながら「10のまとまり」をどちらに作ったらよいか、解決の見通しをもつことができました。直接指導の中で解決の見通しをもたせたことで、この後の間接指導では子供たちは $3+9$ をどのように解決するか粘り強く複数の考え方を表現するなど学習意欲の高まりが見られました。

2年生は、間接指導での導入となり、教師からロイロノートにより問題が送られてきました。送られてきた画面には、問題文の他に、問題場面から式を立てることや、二人とも終えたら発表することなど、間接指導時の学習活動の内容も書かれていました。これを頼りに、子供たちは式を立て、互いに発表するところまでを、教師がつかない状況でも進めることができました。【写真①】



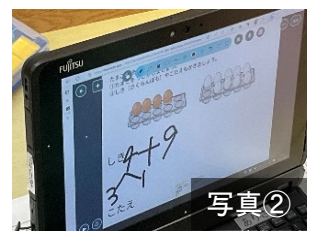
写真①



複式学級の学習指導においては、間接指導でも主体的に学習活動に取り組めるよう、児童の課題意識を引き出すことが大切です。本実践においては、授業者により、課題意識を引き出す問題場面の提示や、問題解決を支える学習活動の指示といった手立てが見られました。このように導入段階で児童の課題意識を引き出すことで、その後の間接指導でも問題解決へ取り組むような学習意欲を喚起し、児童の資質・能力の向上にもつながっていくものと期待されます。

○学習活動を充実するICT活用

1年生は、本時で新しく見出した被加数分解の考えを活用して、同構造の問題を作りました。端末上の卵パックに自分で考えた問題の分の卵を並べ、問題にあう式を書いて解決しています。作った問題は、ロイロノートを通して担任の先生に提出し、それぞれの考えた問題と解決した過程を残すことができました。【写真②】



写真②

2年生は、問題場面の「 6×4 」について自力解決した考えを、ロイロノートを通して電子黒板上で共有しました。直接指導の時間には、電子黒板を使って自分の考えを説明したり、教師の発問のもと子供たちの考えの共通点などを探ったりすることで、同数累加の考えでかけ算の答えを出してよいことに気が付きました。【写真③】



写真③



本実践のように複式指導であっても、ICTを活用して思考を表現したことを共有・比較することで、単元で身に付けたい資質・能力の育成に向けて学習活動を充実することができます。またICTを活用することにより、児童の学習履歴を残すことができ、教師は一人一人の学習状況を把握したり、「指導に生かす評価」を充実させたりすることもできます。

第1・2学年 算数科学習指導案

日 時 令和5年10月25日(水) 5校時
 学 級 1年 2名 2年 2名
 場 所 1・2年教室
 指導者 小 嶋 かず美

1 単元名

| 第1学年 | 第2学年 |
|------------------------|---------------------------------|
| 11 たしざん 【東京書籍 新しい算数1②】 | 11 新しい計算を考えよう 【東京書籍 新しい算数2下】 |

2 単元の目標

| 第1学年 | 第2学年 |
|---|--|
| <p>(1) 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算について一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けるなどして加法が用いられる場面を式に表したり、読み取ったりするとともに、1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 数量の関係に着目し、加法の計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 加法について親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】</p> | <p>(1) 乗法の意味や乗法に関して成り立つ簡単な性質を理解し、乗法が用いられる場面を式で表したり、式を読み取ったりすることができる。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたり、計算を日常に生かしたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 乗法について進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】</p> |

3 単元について

| 第1学年 | 第2学年 |
|--------------------|--------------------|
| (1) 児童について (省略) | (1) 児童について (省略) |

| | |
|---|---|
| <p>(2) 研究との関わり</p> <p>手立て1：「問題や課題を把握する場」の充実 単元をとおして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算では、10のまとまりをつくって考えると答えが求められそうということに気付かせるために、既習事項である「10といくつ」の考えを想起させる。</p> <p>手立て2：「解決方法や結果を見通す場」の充実 「10といくつ」にするには、被加数と加数のどちらの数を分けるとよいかに気付かせるために、具体物やブロックを操作する。</p> <p>手立て3：「考えを交流する場」の充実 自分の考えを分かりやすく伝えるために、ブロック操作と計算方法を対応させながら、説明する活動を繰り返し行っていく。単位時間の終わりには、次時に取り組む問題を提示することで、次時への目的意識を高める。</p> | <p>(2) 研究との関わり</p> <p>手立て1：「問題や課題を把握する場」の充実 単元をとおして、「同じ人数ずつ乗っている方が数えやすい」ということに気付かせたり、いつでも「1つ分の数」と「いくつ分」の関係に着目しながら、絵や文章題から素早く立式できるようにするために、絵を提示したり、ICTを活用したりする。</p> <p>手立て2：「解決方法や結果を見通す場」の充実 「1つ分の数」と「いくつ分」の関係を捉えるために、半具体物を操作したり、図をかき表したりしながら、全体の数を確かめる。</p> <p>手立て3：「考えを交流する場」の充実 「1つ分の数」と「いくつ分」の関係に帰着できるようにするために、「〇つずつ」や「□つ分」という言葉を用いて説明する数学的活動を設定する。</p> |
|---|---|

4 単元の評価規準

| 第1学年 | | 第2学年 |
|---|---------------|---|
| ①加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ②1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。 | 知識・技能 | ①乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。 ③乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 |
| ①ある場面について、加法を用いることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。 ②日常生活の問題を加法を活用して解決している。 ③和が10より大きい数になる加法について、「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。 | 思考・判断・表現 | ①乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結び付けてとらえたりしている。 ②計算の仕方を振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それを基に乗法を構成したりしている。 ③日常生活の問題などを、乗法を活用して解決している。 |
| ①加法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②加法の場面を身の回りから見付け、加法を用いようとしている。 ③学習したことをもとに、和が10より大きい数になる加法の計算の仕方を考えようとしている。 | 主体的に学習に取り組む態度 | ①累加の簡潔な表現としての乗法のよさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 ②一つ分の大きさが決まっているときに、その幾つ分かに当たる大きさを求める場合に、乗法を用いるとその総数を簡潔に求めることができるというよさに気付き、乗法の場面を身の回りから見付け、乗法を用いようとしている。 |

5 指導と評価の計画（「・」…指導に生かす評価，「◎」…記録に残す評価）

(1) 第1学年

| 時 | □学習課題 ・学習活動 ○まとめ | 評価規準（評価方法） | | |
|-----------|--|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 | □9+4のけいさんのしかたをかんがえよう。 ・求める答えが10より大きい数であることや、数が多いことについて、どんぐりを実際に数えて考える。 ○10のまとまりをつくとけいさんできる。 | | ・思①（行動観察，ノート分析） | ・態①（行動観察，ノート分析） |
| 2 | □9+4のけいさんのしかたをせつめいしよう。 ・繰り上がりのある加法計算について、ブロックや図などを用いて考える。 ○10のまとまりをつくるために、4を1と3にわける。 | ・知①（行動観察，ノート分析） | | |
| 3 | □8+3のけいさんは9+4とおなじようにできるのかな。 ・前時までの学習を踏まえながら、繰り上がりのある加法計算について、ブロックや図などを用いて考える。 ○9+4とおなじように、10といくつになるように、うしろのかずをわける。 | | ○思①（行動観察，ノート分析） | ○態①（行動観察，ノート分析） |
| 4 | □いままでのけいさんをマスターしよう。 ・練習問題に取り組む。 | ・知②（行動観察，ノート分析） | | |
| 5 【本時】 | □どちらを10にしようかな。 ・被加数を分解して計算する方法を、卵パックの写真などを手掛かりにしながら、ブロックや図などを用いて考える。 ○10といくつになるように、どちらかのかずをわけてたすとい。 | | ・思③（行動観察，ノート分析） | ・態③（行動観察，ノート分析） |
| 6 | □じぶんのやりやすいときかたでけいさんしよう。 ・練習問題に取り組む。 | | ○思③（行動観察，ノート分析） | ○態③（行動観察，ノート分析） |
| 7 | □かあどをつかってけいさんのれんしゅうをしよう。 ・計算カードを使って、1人で計算の練習をする。 | | | ・態②（行動観察，ノート分析） |
| 8 | □かあどをつかってともだちともんだいをだしあおう。 ・計算カードを使って、友達と問題を出し合ったり、大きさ比べをしたりする。 | | ・思②（行動観察，ノート分析） | |
| 9 | □ならべたかあどのきまりをみつけよう。 ・順序良く並べた計算カードから、きまりを見つける。 | | ○思②（行動観察，ノート分析） | ○態②（行動観察，ノート分析） |
| 10 | □たんげんのがくしゅうをたしかめよう。 ・問題に取り組み，単元の総復習をする。 | ○知①～②（ペーパーテスト） | | |

(2) 第2学年

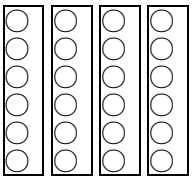
| 時 | □学習課題 ○まとめ | 評価規準 (評価方法) | | |
|-----------|---|---|--|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 | <p>□のりもののり方について気がついたことをせつめいしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1台に乗っている人数が同じ人数ずつの方が数えやすいことをおさえる。 ・おはじきをつかって「1台に○人ずつ□台分で△人」と表す。 <p>○どのりものも12人のっている。1台に同じ数ずつのっている。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・思①③ (行動観察, ノート分析) | <ul style="list-style-type: none"> ・態① (行動観察, ノート分析) |
| 2 | <p>□ぜんぶの数をもとめるには, どんなことがわかればよいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習から発展し, 「1つ分の数×いくつ分=ぜんぶの数」という式を知る。 <p>○「1つ分の数」と「いくつ分」がわかれば, ぜんぶの数をもとめられる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・知① (行動観察, ノート分析) | | |
| 3 | <p>□ほかのばめんもかけ算のしきにあらわせるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗法の場面を式やおはじき, 図で表し, 乗法の意味の理解を深める。 <p>○かけ算の式にあらわすときは, いつでも「1つ分の数」と「いくつ分」にちゅうもくする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・知③ (行動観察, ノート分析) | <ul style="list-style-type: none"> ・思② (行動観察, ノート分析) | <ul style="list-style-type: none"> ・態② (行動観察, ノート分析) |
| 4 | <p>□かけ算のしきをおはじきであらわそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗法の式をおはじきで表し, 友達が表したものを説明する。 <p>○おはじきをならべると, かけ算のしきの1つ分の数といくつ分がわかりやすい。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ○思① (行動観察, ノート分析) | <ul style="list-style-type: none"> ○態① (行動観察, ノート分析) |
| 5 【本時】 | <p>□1つずつ数えないで6×4の答えをもとめるには, どうしたらいいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1つ分の数」×「いくつ分」という数量の関係を想起し, 問題文を図で表す。 ・表した式や図などから, 被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを知る。 <p>○6×4の答えは, $6+6+6+6$の計算でもとめられる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・知② (行動観察, ノート分析) | | |
| 6 | <p>□かけ算をつかえるかしらべよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープ図を使いながら, 「○の□倍」という表し方を知る。 <p>○何ばいかの長さをもとめるときも, かけ算をつかえる。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・思① (行動観察, ノート分析) | |
| 7 | <p>□学校の中でかけ算の式に書ける場めんをさがそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の中で乗法の式に書ける場面を探す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○知①~③ (ペーパーテスト) | <ul style="list-style-type: none"> ○思② (ペーパーテスト) ○思③ (行動観察, ノート分析) | <ul style="list-style-type: none"> ○態② (行動観察, ノート分析) |

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

| 第1学年 | 第2学年 |
|---|---|
| <p>【数学的な見方・考え方】 問題場面の数量の関係などに着目して10をつくることを考え、</p> <p>【数学的活動】 ブロック操作、式、図を関連付けて解法の仕方を表現する活動を通して</p> <p>【数学的に考える資質・能力】 和が10より大きい数になる加法について、「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。</p> | <p>【数学的な見方・考え方】 問題場面の「1つ分の数」×「いくつ分」という数量の関係に着目して考え、</p> <p>【数学的活動】 おはじき、図、式を関連付けて解決の仕方を表現し伝え合う活動を通して</p> <p>【数学的に考える資質・能力】 乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。</p> |

(2) 本時の展開 (段階 網掛け部分…直接指導 白…間接指導)

| 第1学年 | | 第2学年 | | |
|---|--|-----------------------------------|--|---|
| <p>・指導の留意点 ●手立て ◎評価規準</p> | <p>○学習活動 ・予想される 児童の考え</p> | <p>○学習活動 ・予想される 児童の考え</p> | <p>・指導の留意点 ●手立て ◎評価規準</p> | |
| <p>研究：手だて1 「問題を把握する場」 ●卵パックの写真を見て立式することにより、いつもと同じように解けそうという思いを引き出すとともに、前回までと違って被加数の方が小さいことに気付かせる。</p> <p>・ブロックに触れさせ、10のまとまりの作り方に見通しを持たせる。</p> | <p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>たまごはあわせてなんこですか。けいさんのしかたをかながえましょう。</p> </div> <p>○立式をし、答えを確定する。 ○前時までとの違いを考える。 ・今日は、左のほうの数が少ない。 ・10より大きそう。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どちらを10にしようかな。</p> </div> <p>3 課題の見通しを立てる。 ・いつもと同じ方法。 ・昨日までと違うから、別の方法がありそう。</p> | <p>課題把握 5分</p> | <p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1はここにおかしが6こずつ入っています。4はここでは、おかしは何こになりますか。</p> </div> <p>○立式をする。 ○立式の根拠を説明する。 ○図にかき表す。</p> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <p>○図から、答えが24であることを確かめる。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1つずつ数えないで6×4の答えをもとめるには、どうしたらいいのかな。</p> </div> <p>3 課題の見通しを立てる。 ・6が4つで24になる。 ・6こずつが4箱ある。 ・「ぜんぶの数」はたし算のときも出てきた。</p> | <p>研究：手だて1 「問題を把握する場」 ●既習の「1つ分の数」「いくつ分」に着目させることにより、場面を捉えながら立式させる。また、立式の根拠も説明できるようにする。</p> <p>研究：手だて2 「解法や見積もりを予想する」 ●導入時に確かめた「1つ分の数」や「いくつ分」の数や、図を想起させることにより、加減法などの既習事項が使えるように気付かせる。</p> |

| | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|-----------------------------------|--|--|
| <p>・状況を見ながら、自分の考えを友達に伝える活動をしてよいことを伝える。</p> | <p>4 自力で解決する。 ・昨日までと同じように、左の数を10にする。</p> <p>・ $3+9=12$ 10 $7+2$</p> <p>・ 3つの数の計算を使うと、$3+7+2$だ。</p> <p>・ 今日は右の数の方が10に近いから、3を分けて考える。</p> <p>・ $3+9=12$ $2+1+10$</p> <p>・ 3つの数の計算を使うと、$2+1+9$だ。</p> <p>・ こたえ 12こ</p> | <p>課題追究</p> <p>20分</p> | <p>課題追究</p> <p>8分</p> | <p>4 自力で解決する。 ・ 6が4つ分だから、$6+6+6+6$で求められる。 ・ $6+6=12$ $12+6=18$ $18+6=24$ ・ $6+6=12$ $6+6=12$ $12+12=24$</p> <p>・ 答え 24こ</p> | <p>・状況を見ながら、自分の考えを友達に伝える活動をしてよいことを伝える。</p> |
| <p>研究：手だて3「考えを交流する場」 ●「あと○で10」や「10のまとめり」、「どちらかをわける」というキーワードに色チョークを使うことで一般化につなげられるようにする。</p> <p>◎思◎態◎行動 観察, ノート分析 ・タブレットを使い、たまごを使った問題を自由に作る。</p> | <p>5 集団解決をする。 ・10といくつにする。 ・どちらをわけてもよい。</p> <p>6 課題のまとめをする。</p> <p>10といくつになるように、どちらかのかずをわけてたすとよい。</p> <p>7 適用問題に取り組む。 ○他の数でも同じ解法が使えるか考える。</p> <p>8 学習の振り返りをする。 ・今日の学習でわかったこと ・友達の考えを聞いて思ったこと ・次に学習したいことや生かしたいこと など ○振り返りを発表する。</p> | <p>解決・定着</p> <p>17分</p> <p>3分</p> | <p>解決・定着</p> <p>29分</p> <p>3分</p> | <p>5 集団で解決する。 ・たし算で求められる。 ・ 6が4つ分だから、$6+6+6+6$。</p> <p>6 課題のまとめをする。</p> <p>6×4の答えは、$6+6+6+6$の計算でもとめられる。</p> <p>7 適用問題に取り組む。 (1) 自力解決</p> <p>△₄ ①式 3×4 考え方 $3+3+3+3=12$</p> <p>②式 8×3 考え方 $8+8+8=24$</p> <p>△₅ 式 7×6 考え方 $7+7+7+7+7=42$</p> <p>(2) 集団解決</p> <p>8 学習の振り返りをする。 ・今日の学習でわかったこと ・友達の考えを聞いて思ったこと ・次に学習したいことや生かしたいこと など ○振り返りを発表する。</p> | <p>研究：手だて3「考えを交流する場」 ●「6を何回足していますか」と発問することにより、「$6+6+6+6$」という一つの式に表し、一般化につなげられるようにする。</p> <p>・かけ算の式だけでなく、考え方の式として累加の式も書かせ、答えを求める。</p> <p>◎知◎行動◎観察, ノート分析</p> |

算数 1・2年

岩手大学教育学部附属小学校

令和6年1月25日

第1学年 かたちあそび
(東京書籍「新しい算数1下」P75)

第2学年 はこの形をしらべよう
(東京書籍「新しい算数2下」P93)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○学ぶ意欲を高める共通導入の設定

本単元の学習内容は「B 図形」です。本時では、1・2年生が「はこのかたちをうつしとろう」という共通の課題を立て、それぞれに追究することができるようにしました。

まず導入では、箱の面を写し取り、その形を組み合わせ描いたカエルの絵を提示しました。児童たちは、箱の面を写し取って描いた絵だということに気付き、「楽しそう。やってみよう！」と学習への意欲が高まりました。そして、2年生には、箱の面を写し取るだけでなく、写し取ったもので箱を作ることができるか問いました。「面の数や大きさに気を付ければ書ける！」と見通しをもち、1年生よりも少しレベルアップした問いに意欲をもちました。意欲的に活動することによって、1年生は絵を描きながら箱の形の違いを感覚的に理解し【写真①】、2年生は面の数や形、組み合わせ等の構成要素に目を向けることができました。



写真①



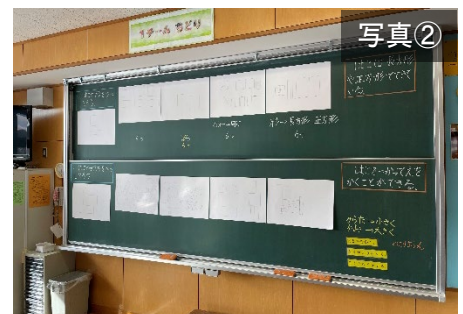
箱の形を写し取る活動が同じ時間でできるように、1年生の指導内容（1時間目と4時間目）を入れ替えました。児童たちが箱に触れられる時間を十分に確保し、種類の違うたくさん箱を用意することで、様々な箱の形の違いを捉えられるようにしました。

本実践では、導入で児童たちが活動の面白さと見通しを明確にもつことができたことで、その後の直接・間接指導でも児童たちは意欲的に学習に取り組むことができました。

○共通終末により1・2年生の学習の系統性を捉える

本校の黒板は上下で学年を分けています。見比べながら両学年の共通点について触れることで、学習の系統性を捉えることができます【写真②】。

授業終盤、個人の振り返り後に「黒板を見て、学習で似ている所はありますか？」と児童に問いかけました。児童は、箱の形を写し取っている所が同じだけど、2年生ではさらに、箱の面の形や数の特徴も学習していることに気がきました。1年生は今楽しく活動したことが、2年生の学習にどのようにつながっていくのか見通しをもつことができました。



写真②



共通課題で導入することにより、振り返りも共通の視点で交流することができます。児童たちが教科の系統性を捉えることができるようにするためには、授業者が系統性について理解し、児童たちの素朴な気付きを価値付けていくことが大切です。また、児童たちの気付きの言葉を適切に板書へ位置付けることで比較しやすくなります。日々の積み重ねにより、系統性を捉えながら学習する力が養われていくと考えます。

第1・2年複式算数科学習指導案

日 時 令和6年1月25日(木)2校時

場 所 ちどり組教室

指導者 小野寺 洋平

- 1 単元名 1学年「かたちあそび」(東京書籍 1年下P.72～75)
2学年「はこの形をしらべよう」(東京書籍 2年下P.92～97)

2 単元について

(1) 児童の実態

【1学年】 本単元は、児童にとって初めての図形学習である。児童は形を「四角い」や「三角」など漠然と捉えている。そのため、身の回りの箱を用いて組み立てたり、写し取ったりすることを通して、図形の特徴や立体の機能についての感覚を豊かにすることをねらう。本単元で、立体を使って形を構成する遊びを十分に行うことで、立体図形と平面図形の違いに対する意識を培い、この後の「かたちづくり」の学習につなげていく。

【2学年】 児童はこれまで、身の回りにある具体物について学習した。ものの形に着目して立体図形の仲間分けをしたり、平面図形の特徴や性質を学習し、図形の作図や分類ができるようにしたりしてきた。第2学年の「長方形と正方形」では、三角形や四角形などの図形を定義してきている。本単元では、図形を構成する要素(辺、面、頂点)に着目し、立体図形の特徴を捉える。そして、直方体、立方体の素地を養っていく。ここでは、展開図そのものの指導には重点は置かないが、第4学年の「直方体と立方体」へとつながっていく。

(2) 学習内容

【1学年】 本単元のねらいは、立体図形や平面図形についての基礎となる感覚を豊かにすることである。そのため、ものの形に着目し、身の回りにあるものの形を観察や構成の対象とし、身の回りからそれを見つけたり、実際に手に取ったり、形作りをしたりする活動を重視する。そのような活動を通して、色や大きさ、位置や材質に関係なく形を認め、形の特徴について捉えることができるような学習を行う。

【2学年】 本単元のねらいは、箱の形(直方体や立方体)について、立体図形の基本的な概念について理解し、これらを用いて図形を分類したり特徴を見出したりすることである。そのため、立体図形の観察や構成などの活動を重視する。直方体と立方体を同時に取り上げ、面の形や数の観察や面の写し取りなどの活動を行う。また、ひごと粘土玉を用いた骨格模型作りを通して、辺や頂点の数を捉えることができるような学習を行う。

(3) 共通に扱うことの意義

本単元の学習内容は、図形である。両学年ともに直方体と立方体を扱い、「同じような形でも違いがある」「2年生の学習で出てくる形は、1年生で使った形である」と共通点が捉えやすい。本単元を共通に展開することにより、共に学ぶことのよさや学習のつながりを実感することができる。

3 学習目標と学習計画

(1) 共通の目標

身の回りの形に着目し、立体図形の特徴を捉える。

(2) 各学年の評価規準

| | 1 学年 | 2 学年 |
|-----------|--|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの形について、「さんかく」「しかく」「まる」などの形を見付けることができる。また、平ら、丸い、かどがあるなどの形の特徴やころがる、重ねられるなどの形の機能的な特徴を知っている。 身の回りにあるものの形について、観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 箱の形について、3種類の長方形が2組で構成されていることなどを理解している。 正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。 |
| 表判思現断考 | <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある具体物の中から、色や大きさ、位置や材質などを捨象し、形を認め、形の特徴を捉えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 箱の形について、その違いに気付き分類し、分類した箱の形の特徴を見いだしている。 |
| 主体的態に度り組む | <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの形に親しみ、観察したり、構成したり、分解したりしようとしている。 箱の形や筒の形、ボールの形などを身の回りから見付けようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの箱の形をしたものが、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。 正方形や長方形を組み合わせるなどして、箱の形を構成しようとしている。 |

(3) 学習計画 【1 学年 全4時間（本時1/4時間）】 【2 学年 全5時間（本時1/5時間）】

| 1 学年 | | | 2 学年 | | |
|--------------|---|----|------|---|----|
| 小単元 | 学習内容 | 時間 | 小単元 | 学習内容 | 時間 |
| かうかこつたうしちてを | ① 立体図形を構成する面の形に着目し、平面図形を見いだす。 (本時) | 4 | はこの形 | ①②箱の面を紙に写し取り、その面を基に、面の形や数に着目して箱の形の特徴を捉える。 用語「面」を理解する。 (本時) | 4 |
| つかくたろちうを | ② ③ものの形に着目し、身の回りの具体物の概形をとらえ、観察や構成を通して立体図形の特徴や機能を知る。 | | | ③同じ長さの辺や向かい合う面に着目して箱を作るための面のつなぎ合わせ方を考える。 写し取った面の形を切り取り、つなぎ合わせて箱を組み立てる。 | |
| まとかたくためちちようを | ④ ものの形に着目し、身の回りの具体物を概形や特徴、機能から分類する。 | | | ④辺の長さや頂点の数に着目して直方体や立方体の構成要素について考える。 | |
| | | | まとめ | ⑤数学的な見方、考え方の振り返りをする。 | |

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- 【1学年の学習目標】立体図形に親しむ。
- 【2学年の学習目標】箱の形（直方体や立方体）に親しむ。
- 【共通の目標】活動を通して、立体図形に親しむ。

(2) 本時の評価規準

- 【1学年】**態** 身の回りにあるものの形に親しみ、観察したり、構成したり、分解したりしようとする。
- 【2学年】**態** 正方形や長方形を組み合わせるなどして、箱の形を構成しようとする。
思 箱の形について、その違いに気付き分類し、分類した箱の形の特徴を見いだそうとする。

(3) 本時の展開【1学年 1/4時間】【2学年 1/5時間】

| 1年 | | 指導 形態 | 2年 | |
|---|---|-----------------|-----------------|---|
| 学習活動 | ・指導上の留意点 | | 学習活動 | ・指導上の留意点 |
| 1. 問題を把握する。 2. 課題を把握する。 はこのかたちを うつしとろう。 | ・身近な箱や箱で描いた絵を提示し、写し取る活動への興味、関心を高める。 ・本時の活動の見通しをもたせる。 | 共通導入 8分 | 共通導入 8分 | 1. 問題を把握する。 2. 課題を把握する。 はこのかたちを うつしとろう。 |
| 3. 形について考え、表現する。 はこのつかってえをかくことができる。 | ・箱に触れ、写し取れる形について話し合う。 ○丸→タイヤにしたい ○四角を組み合わせる ・立体図形から平面図形を写し取り、紙に絵をかく。 ・絵を発表する。 | | | 直接指導 15分 |
| 4. 自己学習の見通しをもつ。 5. まとめを書き、さらに活動する。 | ・自己学習の進め方を確認する。 ・描き終わったら、互いのおもしろいなど思ったところを伝え合うようにさせる。 ○車のタイヤ→丸い箱 ○キリンの首→細長い箱 《自己学習の進め方》 ・ペアで絵の続きを描く。 ・残り5分を目安にまとめ、振り返りを書き、交流する。 | 間接指導 15分 | 直接指導 15分 | 5. 考えを交流する。 ・写し取った形を見合い、考えを交流する。 ・面の形や数に着目させる。 ○長方形だけ、正方形だけの箱がある。 ○長方形と正方形が混じっている。 はこのは、長方形や正方形でできている。 |

| | | | | | |
|----------|---|---------|---------|----------|--|
| | <p>※期待する姿 「まる」「しかく」「さんかく」の形を組み合わせた り、1つの箱の複数の面を 使ったりして、箱の特徴を 捉えた絵を描いている。</p> <p>態身の回りにあるものの形に 親しみ、観察したり、構成し たり、分解したりしようと している。 (観察・ノート)</p> | | | | <p>※期待する姿 面の形や数など、箱の構 成要素に着目し、共通点と 相違点に気付いている。</p> <p>態正方形や長方形を組み合わ せるなどして、箱の形を構 成しようとしている。 (観察・ノート) 思箱の形について、その違 いに気付き分類し、分類 した箱の形の特徴を見い だそうとしている。 (観察・ノート)</p> |
| 6. 振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、学んだことを異学年ペアで交流させる。 黒板を見ながら、両学年の共通点について触れることができるようにさせる。 | 共通まとめ7分 | 共通まとめ7分 | 6. 振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、学んだことを異学年ペアで交流させる。 黒板を見ながら、両学年の共通点について触れることができるようにさせる。 |

(4) 板書計画

| | | | | | |
|---|------|------|------|------|--------------------------|
| はこのかたちをうつしとろう。 | 子供の絵 | 子供の絵 | 子供の絵 | 子供の絵 | はこをつかってえをか くことができる。 |
| 絵 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・キリンのくび→ほそながいはこ ・しかくをくみあわせる ・はこのむきをかえる→ちがうかたち | | | | | |
| はこのかたちをうつしとろう。 | 子供の絵 | 子供の絵 | 子供の絵 | 子供の絵 | 正方形と長方形ではこ をかくことができる。 |
| 写し取った絵 例示 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・長方形と正方形→大きさがばらばら。 ・長方形だけのもの、正方形だけのもの。 ・ぜんぶで6こかたちがひつよう。 | | | | | |

社会 5・6年

岩手大学教育学部附属小学校 令和6年2月10日(土)

第5学年 自然災害を防ぐ
(東京書籍「新しい社会 下」P100)

第6学年 日本とつながりの深い国々
(東京書籍「新しい社会 政治・国際編 P66」)

本実践のポイント



○児童が自力解決する間接指導の充実

本校の社会科複式指導は学年別内容で行っています。複式学級の学びのよさの一つとして、間接指導における自力解決の時間が確保されることがあります。その時間を充実させることで、社会科における問題解決的な学習の進め方を身に付けていくことができると考えます。

本実践は単元の1時間目で、単元の学習問題を設定する場面となります。先に間接指導となる6年生に「学びの手引き」【資料①】を配布し、日本と外国のつながりを写真資料や生活経験を基に考える活動を行いました。そして、間接指導の後半に話し合い活動を設定することで、一人一人が考えをもった上で直接指導を開始し、日本と外国の多様なつながりについて考えを深めることができました。5年生は、単元の学習問題を設定した後の間接指導になるので、「学びの手引き」を活用しながら、地図資料を基に自然災害と自然条件の関係や生活を守るための対策という、学習問題に対する予想を考える時間としました。ここでの予想を基にして、次時には単元の学習計画をつくることができました。

このように、間接指導の時間の充実を図ることによって、児童が社会的事象についてじっくりと考え、深い理解につながると考えます。



「学びの手引き」は、児童が見通しをもち学習できること、資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付け、自分なりの考えをもてるようにすることをねらって、学習活動の順序とゴールがよく分かるように作成しています。また、タブレットを活用し、資料の配布や解決結果の収集、動画の視聴、シンキングツールを用いた図表の作成など、より短い時間で効果的に問題解決ができるようにしています。



○振り返りにおける異学年交流

単位時間の振り返りの場面で、異学年のペアに対して本時の学習で学んだことや、これから追究したいことなどについて伝え合い、自分の学びを整理し表現する時間を設けています。

本実践では、6年生は、日本と外国のつながりについてタブレットの資料を見せながら説明しました。5年生は、自然災害と自然条件の関係性について自分の予想を話しました。また、単元の導入であるため、これから自分が解決したい「問い」についても伝え合いました。【写真①】

このような伝え合いを繰り返し行うことで、社会的事象に自分なりの考えをもち、相手に分かるように説明する表現力が高まると考えています。



児童が本時で学んだことを、黒板やタブレットを示しながら説明することで学びを自分なりに整理し、理解することができます。上学年にとっては、昨年度の復習や社会的事象の捉え直しになります。下学年にとっては、次年度に行う学習の予習となり、期待感をもって学習に臨む姿が見られます。学んだことや考えたことを自分なりの言葉でアウトプットする時間を保障することは、社会的事象について理解を深めることにつながります。

※指導案は次ページに掲載

資料①

6年生 追究の鬼カード

- ①地図帳のP118～120を開いて4つの国の国旗に赤ペンで○印をつけましょう。そして、4つの国の場所を見つけて国名を赤ペンで囲みましょう。
- ②写真を見て、日本と4つの国のつながりをそれぞれ考えてカードに書きましょう。
写真にないことでも、テレビのニュースや新聞を読んで知っていること、生活の中で気づいたこと、これまでの歴史の学習で学んだことから、つながりを見つけてみましょう。
- ③9時45分になったら、友達と4人と3人のグループになって、気づいたつながりを伝え合きましょう。

5年生 追究の鬼カード

単元の学習問題に予想をしましょう。

- ①資料を見て、地震、津波、火山のふん火、台風、大雨、大雪について、それぞれ気候や地形とどのような関係がありそうか予想しましょう。
- ②それぞれの災害にどのような対策がありそうか予想しましょう。
- ③10時7分になったら、振り返りを書きましょう。

写真①



第5・6学年複式 社会科学学習指導案

場 所 5・6年かつら組教室
指導者 関 戸 裕

- 1 単元名 【5年】5 わたしたちの生活と環境 (1) 自然災害を防ぐ (東京書籍)
【6年】3 世界の中の日本 (1) 日本とつながりの深い国々 (東京書籍)

2 単元について

(1) 学習材について

【5年生 自然災害を防ぐ】

本学習材は、学習指導要領における「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」の単元に位置付くものである。我が国における自然災害について、種類や発生位置、対策について調べ、自然災害は国土の自然条件と関連して発生していることや、国土を保全し国民生活を守るために国や地方公共団体が様々な対策を進めていることを理解する。児童は、4年生においても岩手県における自然災害の様子や備えについて学習している。本学習材では、範囲を国土全体に拡大し、災害と自然条件の関連を総合的に学んでいく。今年1月に発生した能登半島地震や、岩手県にも大きな被害をもたらした東日本大震災など、児童にとっても自然災害は身近であるため、自分事として深く考えられるようにしていく。

【6年生 日本とつながりの深い国々】

本学習材は、学習指導要領における「グローバル化する世界と日本の役割」の単元に位置付くものである。我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国々について各種資料で調べ、日本の文化や習慣と比較して違いを捉え、多様性について理解すると共に、異なる文化を尊重し合うことの大切さについて理解する。児童は、これまでに産業や歴史の学習においても、外国とのつながりの重要性を理解してきている。本学習材では、それらを改めて身近な生活から捉え直し、現代社会や未来における国際交流・国際協力の果たす役割を多角的に考えられるようにしていく。

(2) 児童の実態と指導観

本学級の児童は、複式学級として異単元異内容の社会科学の学習に取り組んでいる。5年生も6年生も社会科学の学びに楽しさを感じながら、意欲的に取り組んでいる。

5年生は、これまでの学習により、問題解決的な学習の進め方が身に付いてきている。直接指導の際には、素直な気付きから問いをもち、予想を立てて調べ、捉えたことから自分なりの考えをもって伝え合うことができている。一方で、間接指導においては、自分の力で情報を集めたり、集めた情報から自分なりに捉えたり考えたりする活動において、時間や内容の差が生じることがある。

6年生は、2年間の学習により複式における社会科学の学び方を十分に身に付けている。間接指導では、活動のねらいを理解し、自分の力で問題解決をすることができている。直接指導においては、自分の考えを積極的に伝え合い、社会的事象の意味を深く考えようとしている。

このような児童の実態を考慮し、本単元では、異学年少人数である複式学級のよさを生かしながら、社会科学の学びを深められるように以下の手立てを講じていく。

① 5年生の学習における間接指導の充実

5年生の間接指導において「学びの手引き」を活用する。「学びの手引き」は、児童が見通しをもって学習できること、資料から情報を取り出す力を高めること、取り出した情報から自分なりの考えをもてるようにすることをねらって、学習活動の順序とゴールがよく分かるように作成する。また、動画の視聴や図表の作成などの活動において ICT を活用し、より短い時間で効果的に問題解決ができるようにする。

② 6年生の学習における事例選択学習

6年生の学習は、これまで身に付けてきた社会科学の学び方を生かし、自分で問題解決を進めていけるように単元を構成する。全体で学習問題を設定した後は、児童一人一人が事例を選択し、学習計画を立てて自力解決できるようにする。単元の後半には、それぞれが調べたことや分かったこと、考えたことを交流し、社会的事象に対して多角的に考え、単元の問題に対する自分なりの解をもてるようにする。

③ 振り返りにおける異学年交流

単位時間の振り返りの場面で、異学年のペアに対して本時の学習で学んだことや、これから追究したいことなどについて伝え合う活動を行う。児童が黒板やタブレットを示しながら説明することで学びを再構成することができる。上学年にとっては昨年度の復習や社会的事象の捉え直しになり、下学年にとっては、次学年の予習となり、社会的事象について理解を深めることにつながる。

3 指導計画

(1) 各学年の単元目標

○5年生

我が国の国土の自然条件と国民生活について災害の種類や発生位置や時間、防災対策などに着目して、地図や各種資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

○6年生

グローバル化する世界の日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする態度を養う。

(2) 評価規準

| | 5年生 | 6年生 |
|---------------|---|---|
| 知識・技能 | <p>①災害の種類や発生位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。</p> <p>②調べたことを表や文にまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解している。</p> | <p>①外国の人々の生活の様子などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解している。</p> <p>②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国々の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p>① 災害の種類や発生位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見だし、国土の自然災害の状況について考え、表現している。</p> <p>②我が国で発生するさまざまな自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。</p> | <p>①外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見だし、日本の文化や習慣との違いについて考え、適切に表現している。</p> <p>②世界の国々の文化や習慣は多様であることとスポーツや文化などを通して他国と交流することを関連付けて、国際交流の果たす役割を考えたり、学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>① 我が国の自然災害の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究、解決しようとしている。</p> | <p>①外国の人々の生活の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。</p> |

4. 単元計画 (5年… 全7時間) (6年… 全7時間)

| 時 | 5年生 | 6年生 |
|---------|--|--|
| | ○学習活動 【 】評価規準 | ○学習活動 【 】評価規準 |
| 1 本時 | ○日本の自然災害に関わる地図や年表、写真資料を読み取り、過去に発生した自然災害の状況から分かったことや考えたことを基に、学習問題を設定する。 【思判表①】 | ○これまでの社会科の学習や、生活経験をもとに、日本とつながりの深い国について話し合い、学習問題を設定する。 【思判表①】 |
| 2 | ○日本で地震が起きる場所や理由、国や地方公共団体が行っている取組を調べ、防災や減災の対策と効果について話し合う。 【知・技①】 | ○サウジアラビアについて、生活習慣や文化などについて調べ、日本との違いを話し合う。 【知・技①】 |
| 3 | ○津波が発生する仕組みや、国や地方公共団体の取組を調べ、防災や減災の対策と効果について話し合う。 【知・技①】 | ○アメリカ、中国、韓国、について位置や面積、人口や言語などの基本情報を整理し自分で調べたい国を決めて学習計画を立てる。 【態度①】 |
| 4 | ○風水害の発生条件や、国や地方公共団体の取組を調べ、被害を減らすための対策と効果について話し合う。 【知・技①】 | ≪事例選択学習≫ ○3か国の中から1か国を選択し、生活習慣や文化スポーツなどについて調べる。 |
| 5 | ○火山の噴火や大雪の発生条件や、国や地方公共団体の取組を調べ、被害を減らすための対策と効果について話し合う。 【知・技①】 | ○自分が調べた国と日本の習慣や文化を比較し、違いについて考える。 |
| 6 | ○学習したことを災害の種類ごとに表に整理し、比較したり総合したりして考え、災害と自然条件との関連や、防災・減災に向けた対策や事業の役割を話し合う。 【知・技②】 | ○自分が調べた国について紹介するためのプレゼンテーション資料を作成する。 |
| | | ○自分が調べた国について友達にプレゼンテーションをする。国の担当として質問に受け答えができるようにする。 【知・技①】 |
| 7 | ○災害を分類した表を基に、国や地方公共団体の対策について共通点に着目して捉え、現在の自分たちの生活を守るために必要な取組について考え、提案文に表現する。 【思判表②】【態度①】 | ○友達が調べた国の紹介を聞き、日本や自分が調べた国と比較し、世界の人々の生活習慣や文化が多様であることや、互いを尊重する必要があることを話し合う。 【知・技②】 |
| | | ○学習したことを基に、国際交流が果たす役割について考える。 |
| | | ○世界の人々と共に生きていくために必要なことや外国の人との関わり方を考え、文章に表現する。 【思判表②】【態度②】 |

5 本時の指導 (5年 1/7時間) (6年 1/7時間)

(1) 目標

【5年生】

日本の自然災害について、災害の種類や発生の位置や時期、対策などに着目して問いを見いだし、学習問題を考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)

【6年生】

日本とつながりの深い国について、外国の人々の生活の様子などに着目して問いを見いだし、学習問題を考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)

(2) 評価

| | 5年生 | 6年生 |
|--------------|--|---|
| 評価の観点 | 思考・判断・表現 | 思考・表現・判断 |
| 評価方法と評価規準 | ノートの記述や発言内容から、「日本における過去に発生した自然災害の状況について調べ、自然条件や対策に着目して問いを見いだし、学習問題を考えることができたか」を評価する。 | ノートの記述や発言内容から、「日本とつながりの深い国について調べ、外国の人々の生活の様子などに着目して問いを見いだし、学習問題を考えることができたか」を評価する。 |
| 努力を要する児童の手立て | 板書の資料や言葉に着目して学習内容を確認したり、友達の発言を思い出したりして、児童の問いを引き出せるようにする。 | |

(3) 展開

| 5 年生 | | | 6 年生 | | |
|---|--|-----------------------|--|--|--|
| 指導上の留意点 | 学習活動 | 直接・間接 | 学習活動 | 指導上の留意点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 世界で発生する地震の発生回数における日本の割合や、発生頻度の順位をクイズ形式で示し、児童が驚きをもって捉えられるようにする。 世界における地震と台風の多い国の順位を提示し、日本の災害について問題意識をもてるようにする。 | 1. 日本の自然災害について世界と比較しながら話し合い、本時の学習問題を設定する。 | 問題の把握 共通導入 5分 | 1. 日本とつながりの深い4か国について話し合い、本時の学習問題を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> 中国、大韓民国、アメリカ、サウジアラビアの様子が分かる2枚の写真を提示し、クイズ形式にしながら発問することで、日本とのつながりに気付くことができるようにする。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本では、どのような自然災害が起こってきたのだろう。</div> | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本と4つの国は、どのようにつながっているのだろう。</div> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 生活経験を基に、災害の種類に絞って予想する。 写真や年表など、必要な資料について話し合い、追究の見通しがもてるようにする。 | 2. どのような災害がありそうか予想する。 | | 2. 追究の方法の見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> 「学びの手引き」を配付し、自分の力で追究できるようにする。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 災害の写真を基に生活にどのような影響があるか考えられるようにする。 年表から大きな災害だけでも数多く発生していることを捉えられるようにする。 災害は、過去のことだけでなくこれから発生していくことを確認し、自然災害の発生条件や生活を守るための対策などに着目して、問いを見いだせるようにする。 | 3. 資料をもとに、課題の追究を行う。 (1)年表を基にどのような種類の災害が発生しているかを捉える。 (2)災害の様子や写真を基に、生活への影響について考える。 4. 災害と自然条件の関係や、生活を守るための対策に問いをもち、単元の学習問題を設定する。 | 問題の追究① 直接指導 18分 | 3. 日本と4か国のつながりを調べる。 (1)各国の位置について地図帳で調べる。 (2)日本とのつながりを予想する。 | <ul style="list-style-type: none"> 地図帳を使って自分の力で調べられるようにする。 写真資料を基に、日本と4か国のつながりを予想して記述する。【タブレットの活用】 生活経験やこれまでの学習を基に、写真にはなくとも根拠をもって説明できるつながりについて認め、記述できるようにする。 日本と4か国のつながりについて児童が自分たちで話し合っ進めていけるようにする。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本で起こる災害は、地形や気候とどのように関わり、どのように生活を守っているのだろう。</div> | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 「学びの手引き」を配付し、自分の力で追究できるようにする。【タブレットの活用】 災害の種類ごとに自然条件の関わりと対策について、これまでの経験を基に予想し、自分なりの考え（第一見解）を記述できるようにする。 現在の自分では分からないこと、これからもっと知りたいことについて整理できるようにする。 | 5. 単元の学習問題に対する自分の考えをもつ。 (1)自然条件との関わり (2)対策について | 問題の追究② 間接指導 17分 | 4. 日本と4か国のつながりについて話し合う。 5. 4か国の生活習慣や文化の違いに問いをもち、単元の学習問題を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童が見つけたつながりについて、教師が整理して板書することで、食生活、貿易、文化、歴史、スポーツなど、様々なつながりがあることを考えられるようにする。 サウジアラビアの石油に着目させることで、自分たちの生活にかかわる深いつながりがあることに気付かせたい。 つながりを考える中で生じた問いを大切にしながら、生活の違いに着目させ、単元の学習問題へとつなげていくようにする。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本とつながりの深い国々の人々は、どのような生活をしていて、どのようなちがいがあがあるのだろう。</div> | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 日本では、どのような自然災害が起こってきたのかを6年生に説明できるようにする。また、単元の学習問題に対して予想したことも伝えられるようにする。 | 6. 本時の学習を振り返り6年生と交流する。 | まとめ 直接指導 5分 | 6. 本時の学習を振り返り5年生と交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> 日本と4か国のつながりと、これから自分が追究していきたいことについて記述する。つながりについては、板書を示しながら5年生に説明できるようにする。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">※評価 ノートの記述や発言内容から、「日本とつながりの深い国について調べ、外国の人々の生活の様子などに着目して問いを見だし、学習問題を考えることができたか」を評価する。</div> | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">※評価 ノートの記述や発言内容から、「日本とつながりの深い国について調べ、外国の人々の生活の様子などに着目して問いを見だし、学習問題を考えることができたか」を評価する。</div> | |

6年生 追究の鬼カード

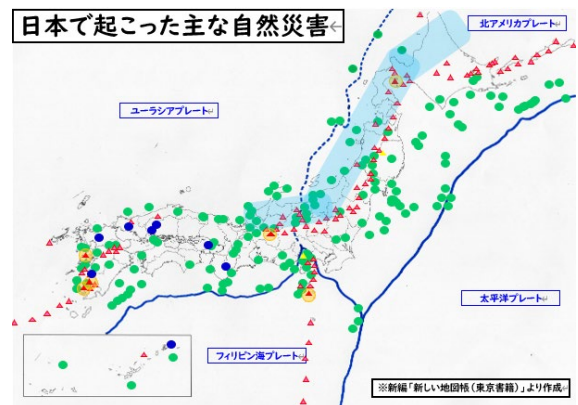
- ①地図帳のP118～120を開いて4つの国の国旗に赤ペンで○印をつけましょう。そして、4つの国の場所を見つけて国名を赤ペンで囲みましょう。
- ②写真を見て、日本と4つの国のつながりをそれぞれ考えてカードに書きましょう。
写真にないことでも、テレビのニュースや新聞を読んで知っていること、生活の中で気づいたこと、これまでの歴史の学習で学んだことから、つながりを見つけてみましょう。
- ③9時45分になったら、友達と4人と3人のグループになって、気づいたつながりを伝え合いましょう。

(写真等)

5年生 追究の鬼カード

単元の学習問題に予想をしましょう。

- ①資料を見て、地震、津波、火山のふん火、台風、大雨、大雪について、それぞれ気候や地形とどのような関係がありそうか予想しましょう。
- ②それぞれの災害にどのような対策がありそうか予想しましょう。
- ③10時7分になったら、振り返りを書きましょう。



道徳 3・4年

岩手大学教育学部附属小学校 令和6年1月19日(金)

第3学年 一まいの銀貨
(学研「新・みんなのどうとく」P90)

第4学年 お母さんのせい求書
(学研「新・みんなのどうとく」P14)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○「共通導入」における問題意識の共有

令和6年1月に行われた道徳授業研修会での実践です。道徳科における複式指導の在り方について探ることを目的とし、授業を構想しました。

本校では、学級として共に学ぶ意識を大切にするため、課題設定(道徳科では学習の方向性)まで、学級全員で学びを進めています。

本実践においても、児童たちが問題意識を共有して学びに臨めるようにするため、同内容項目を扱う教材を配列し、共通導入を行いました。共通導入では、自分が家族を支えている存在であることを自覚するとともに、家族の支えの方が大きいことに気付かせ、そこからどんな自分になりたいか問い、本時の学習の方向性を設定していきました。【写真①】

そうすることにより、児童同士で問題意識を共有し、学級全体で考えていくことを明確にすることができました。また、上学年の考えから下学年が学んだり、下学年の気付きから上学年の発想が広がったりする姿も見られ、共に学ぶよさの実感にもつなげることができたと感じています。

写真①

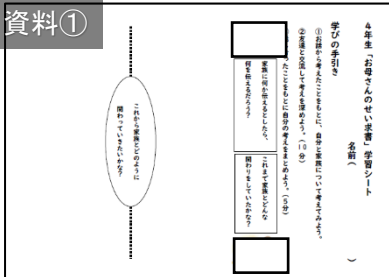


共通導入の場面では、児童たちの話合いの時間を保障するため、「解決したい。」「何とかしたい。」という思いをできるだけ短時間で喚起することが大切だと考えました。そのため、自分と家族の関わりをシンプルな構造図に整理し、問題を見出していけるようにしました。それにより、児童たち自身が問題を設定し、主体的に学ぶ姿につなげることができました。

本実践は、同内容項目を扱う教材ですが、異内容項目であっても教材の組み合わせ方によって、共通導入は可能であり、より多面的・多角的に考える学びにつながると考えられます。

○児童に委ねる間接指導とワークシート

資料①



本実践における間接指導では、ワークシートを活用しました。(資料①) ワークシートには、発問をそのまま記載するのではなく、考える場面だけを示して児童の考えを狭めないように配慮したり、書くことに終始せず、話合いを通して考えを深められるよう、時間配分を工夫したりしました。

教師側から全てを用意するのではなく、児童たちに間接指導の時間の学びを委ねることによって、児童たちが互いの考えに共感しながら考えを補充・深化・統合したり、広い視野から自己を見つめたりする姿につながりました。



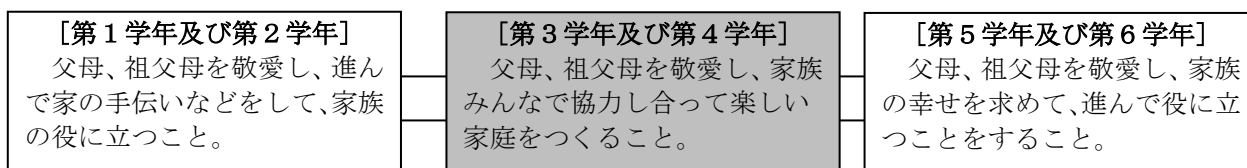
間接指導は、どうしても教師の目が届かないため、授業する側としては、児童たちが迷わないようにたくさんの手立てを用意したくなります。しかし、敢えて大きな枠だけ設定し、その中で、児童たちが自由に学べるようなワークシートなどを作成することで、自ら学ぶ学習者としての児童が育っていくと考えます。

第3・4学年 特別の教科 道徳 学習指導案

日 時 令和6年1月19日（金） 6校時
 児 童 3・4年すずらん組 16名
 場 所 3・4年すずらん組教室
 指導者 谷藤 光明

- 1 主題名 かけがえのない家族と自分 【家族愛、家庭生活の充実】
 2 教材名 3年生：一まいの銀貨 （出典 学研教育みらい「新・みんなの道徳3年」）
 4年生：お母さんのせい求書 （出典 学研教育みらい「新・みんなの道徳4年」）
 3 主題設定の理由及び指導に当たって

「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」において、【家族愛、家庭生活の充実】は次のように発展していくと示されている。



【本内容項目に関わる児童の実態】

- 家族について話題にする子が多く、自分の生活が家族によって支えられているという実感をもっていることが窺い知れる。
- 手伝いをしたり、兄弟のお世話をしたりする子も多くいるため、家族の一員という自覚が芽生えていることが窺い知れる。
- 家族の支えが当たり前になってしまい感謝の思いを言葉に表したり、家族のことを思って行動したりするまでには至っていない子もいる。
- 家族からの支えや家族がかけがえのない存在であることを意識できず、不平や不満を安易に言葉にしてしまう子もいる。

【指導に当たって】

- 【共通】登場人物の心情を考えさせたり、これまでの経験を振り返らせたりして家族を支える自分の在り方について、納得解を見出せるようにする。
- 【3年生】直接指導において、具体的場面を想起させながら思いを語らせることで、家族の役に立つ喜びを実感的に理解できるようにする。
- 【4年生】登場人物の人間の弱さに共感させたり、行動の意味を考えさせたりすることで、家族の一員であることの意味や家庭生活を支えるよさに気付けるようにする。

【教材の特質】

一まいの銀貨（3年生）

- ・自分が失敗した時、家族が温かいフォローをしてくれるという、子供の生活場面で起こりえる状況が教材化されている。
- ・主人公の思いを共感的に考えさせたり、家族に対する愛をもとにした温かな関わりによさについて考えさせたりしてねらいにせまる教材である。
- ・登場人物同士が互いを思い合う姿が描かれており、家族愛が双方向的に実現されるよさを見出すことができる教材である。
- ・銀貨がどこにあったのか明確に示されないことにより、家族に対する温かい思いを際立たせている教材である。

お母さんのせい求書（4年生）

- ・家族の無私の愛に気付かず、自分が行った手伝いに対して報酬を求めたくなるという子供の日常生活に近い場面が教材化されている。
- ・主人公の考えや行動に対して共感的、批判的に考えさせたり、家族の意味について考えさせたりしてねらいにせまる教材である。
- ・お母さんからの請求書によって、主人公が己の浅はかさを反省する場面まで描かれており、家族の無私の愛に気付くことが要となっている教材である。

【本内容項目に係る指導計画】

一まいの銀貨（3年生）

ねらい：家族の互いに対する思いについて考えることを通して、家族が愛情をもって自分を陰ながら支えていることに気付き、家族に対して進んで役に立つようとする心情を育てる。

お母さんのせい求書（4年生）

ねらい：家族に対する関わり方について考えることを通して、家族が無私の愛情をもって家庭生活を支えていること気付き、家族の一員として家庭生活を大切にしようとする心情を育てる。

家族愛、家庭生活の充実

- ・「家族愛」とは、親子や兄弟などが互いに慈しみ合う心であり、私心にとらわれずに相手にとって良かれと思う心である。こうした感情は、家族の中で自然と醸し出される心である。つまり、家族のために何かしたい、役に立ちたいと思う心とも言える。
- ・「家庭生活の充実」とは、家族の一員という帰属意識を基盤とし、自分を支えてくれている父母や祖父母などに親しみの気持ちを持ち、よりよい家庭を築くために役立つ行いをする、しようとする思いである。

4 本時のねらい

【下学年：3年生】家族の互いに対する思いについて考えることを通して、家族が愛情をもって自分を陰ながら支えていることに気付き、家族に対して進んで役に立とうとする心情を育てる。

【上学年：4年生】家族に対する関わり方について考えることを通して、家族が無私の愛情をもって家庭生活を支えていること気付き、家族の一員として家庭生活を大切にしようとする心情を育てる。

5 本時の展開

| 3年生 | | | | | 4年生 | |
|--|--|---------------------------------|---|---------------------------------|--|--|
| 主な学習活動（○：発問 ◎：中心発問 □：支援） | | 直 間 | 段 階 | 直 間 | 主な学習活動（○：発問 ◎：中心発問 □：支援） | |
| 1. これまでの自分と家族の関わりを想起させることを通して、解決したい問題を見出す。 2. 本時の学習の方向性を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">もっと家族を支える自分になるには？</div> | | 共通 導入 | 導 入 | 共通 導入 | 1. これまでの自分と家族の関わりを想起させることを通して、解決したい問題を見出す。 2. 本時の学習の方向性を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">もっと家族を支える自分になるには？</div> | |
| 3. 主人公の行動や気持ちについて考える。 <input type="radio"/> 銀貨を無くして家に戻っている時、どんな思いでいるのだろうか。 <input type="radio"/> 階段を上がれず後ろに隠れた時、どんな気持ちでいるのでしょうか。 <input type="radio"/> もう一度お使いに向かっている時、ハンスはどんなことを考えているのでしょうか。 <input type="checkbox"/> 子供たちが話し合いを通して、価値の追求・把握ができるよう3つの観点を設定し、家族を支えるよさについて気付くことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 記述よりも交流に重きを置き、対話によって考えを深めていけるようにする。 | | 間 接 指 導 15分 | 価 値 の 追 求 ・ 把 握 15分 | 直 接 指 導 15分 | 3. 主人公の行動や気持ちについて考える。 <input type="radio"/> たかしが請求書を書いている時、どんな思いでいたのだろうか？ <input type="checkbox"/> 自分の行いに対して見返りを求めたくなる人間的弱さに共感できるようにする。 <input type="radio"/> たかしとお母さんの請求書の違いから、たかしは何に気付いたのだろうか？ <input type="checkbox"/> 2つの請求書を比較することで、家族に対する考え方の違いについての考えを深められるようにする。 <input checked="" type="radio"/> たかしの目がなみだでいっぱいになったのは、なぜでしょう。 <input type="checkbox"/> 自分の生活が、家族の無償の愛によって支えられていることに気付かせていく。 | |
| 4. 自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深める。 <input checked="" type="radio"/> ハンスとその家族に対してどんなことを感じるだろうか。 <input type="checkbox"/> 間接指導での子供の考えをもとに、中心発問を設定する。 <input type="checkbox"/> 客観的に教材に向き合わせることで、家族の温かな関わりによさに気付けるようにする。 <input type="radio"/> 自分が失敗した時、家族に支えてもらったことはあるだろうか。 <input type="checkbox"/> 具体的場面の想起とともに、その際の思いを共有し、家族を支えるよさについて実感できるようにする。 <input type="radio"/> その経験から、今どんなことを考えるだろうか。 <input type="checkbox"/> 自分が支えられている分、自分も家族に対して役に立ちたいという思いを醸成する。 | | 直 接 指 導 15分 | 価 値 の 主 体 化 15分 | 間 接 指 導 15分 | 4. 自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深める。 <input type="radio"/> 今、家族に何かを伝えるとしたら何を伝えますか。 <input type="radio"/> これまでの自分は、家族とどう関わっていたのだろうか。 <input type="radio"/> これから家族と、どのように関わりたいと思いますか。 <input type="checkbox"/> 3つの観点から価値の主体化を促し、家族の一員として率先して家庭生活を支えようとする思いを醸成する。 <input type="checkbox"/> 記述よりも交流に重きを置き、対話によって考えを深めていけるようにする。 | |
| 5. 本時の学習を振り返る。 <input type="checkbox"/> 自己の生き方に対する考えの記述を通して、学習状況の把握をする。 6. 教師の説話を聞く。 <input type="checkbox"/> 子供たちの姿を価値付けたり、今後の子供たちの姿を期待したりして認め、これからの生活への意欲高める。 | | 共 通 ま と め 8分 | 終 末 8分 | 共 通 ま と め 8分 | 5. 本時の学習を振り返る。 <input type="checkbox"/> 自己の生き方に対する考えの記述を通して、学習状況の把握をする。 6. 教師の説話を聞く。 <input type="checkbox"/> 子供たちの姿を価値付けたり、今後の子供たちの姿を期待したりして認め、これからの生活への意欲高める。 | |

3年生「一まいの銀貨」学習シート

名前()

学びの手引き

- ①登場人物の気持ちや行動の理由について、自分の考えをメモしよう。
- ②友達と交流して考えを深めよう。(10分)
- ③話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめよう。(5分)

銀貨を無くして、家にもどっている時

(挿絵)

階段を上がれず、後ろにかくれた時

(挿絵)

(挿絵)

もう一度、元気にお使いに向かっている時

(挿絵)

4年生「お母さんのせい求書」学習シート

名前()

学びの手引き

- ①お話から考えたことをもとに、自分と家族について考えてみよう。
- ②友達と交流して考えを深めよう。(10分)
- ③話し合ったことをもとに自分の考えをまとめよう。(5分)

(挿絵)

家族に何か伝えるとしたら、
何を伝えるだろう？

これまで家族とどんな
関わりをしていたかな？

(挿絵)

これから家族とどのように
関わっていききたいかな？

複式指導資料第37集（令和5年度）
 いわたの複式指導実践事例集

-----協力校（事例順）-----

葛巻町立小屋瀬小学校
 遠野市立附馬牛小学校
 奥州市立黒石野小学校
 大船渡市立吉浜小学校
 岩泉町立小本小学校
 一戸町立鳥海小学校
 岩手大学教育学部附属小学校

-----作成協力（事例順）-----

| | | |
|-------------------|--------|-------|
| 盛岡教育事務所 | 主任指導主事 | 伊藤 彰子 |
| 中部教育事務所 | 主任指導主事 | 高橋 徹 |
| 県南教育事務所 | 指導主事 | 山口 響 |
| 沿岸南部教育事務所 | 指導主事 | 伊藤 光喜 |
| 宮古教育事務所 | 指導主事 | 上田 佳穂 |
| 県北教育事務所 | 指導主事 | 小山 哲朗 |
| 県北教育事務所（久慈市教育委員会） | 指導主事 | 伊東 晃 |
| 岩手大学教育学部附属小学校 | 教諭 | 金子 裕輔 |

参考資料

複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド（岩手県立総合教育センター）



岩手県教育委員会事務局学校教育室

<https://www.pref.iwate.jp/index.html>

トップページ > 教育・文化 > 教育 > 学校教育 > 小学校・中学校教育 > 小規模・複式指導について

